

The Danube Quarterly

ドナウ通信



2008（平成20）年・夏季号



ハンガリー日本人会会報 / The Japanese Community Bulletin



July

S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

August

S	M	T	W	T	F	S
						1
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

September

S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

目次

運動部情報

ランニング部

リレー大会に大活躍

兼子 秀昭

2

参加者の一言（向井初美・西城淳子・江森雅美）

2

フローラ女子・K&Hリレーに参加して

3

ハーフマラソンリレーに参加して

山内 淳子

6

マラソンリレー初参加

保坂 昌宏

9

釣り部

Nさんの執念

関本 正

10

テニス部

アマチュア・テニス試合初出場

横地 伸介

14

ペアマッチテニス大会

石川 正和

16

日曜午前テニスのお知らせ

的場 英門

17

ゴルフ部

パンノニアゴルフコース

山田 進

19

日本人会からのお知らせ

ソフトボール大会報告

日本人会・日本人学校共催運動会のお知らせ

22 21

運動部情報

ランニング部

在留邦人のランニング人口が増えています。今年最初のレースである4月のT-COMには3名、5月のフローラ女子のリレー種目に日本人学校から6チーム、6月のK&Hマラソン・ハーフマラソンリレー大会のエキジビジョン・ミニマラソンリレーに日本人学校から12チーム、フルマラソンリレーには男子2チーム、ハーフマラソンリレー女子1チームが参加しました。

とくに、ミニマラソンリレーでは男女174チームのうち、日本人学校チームが7%も占め、レースアナウンサーが何度も「ヤパーン・インユウラ」を叫び、日本人学校の活躍が目立っていました。この活躍もあって、参加者全員にサッカーボールが贈られるという思いがけないプレゼントがありました。

ゼントがありました。

メインイベントのハーフマラソンリレーには207チーム、マラソンリレーには586チームが参加し、今年のK&H大会は800名近いランナーが一斉にスタートするというハンガリーで最大のリレー大会になりました。

例年、ハンガリーと日本の速いランナーを集める「日本ーハンガリー友好チームA」は、体調不良者と走者の都合がつかず、ここ3年維持してきた10番台を維持することができず、惨敗しました。大使館チームは第一走者がリタイアしたにもかかわらず、レース続行が認められ、全員が完走しました。ここがハンガリーの大会らしいです。女子のハーフマラソンでは山内さんのチームが、1時間51分41秒で、47チーム中15位と健闘しました。

9月には国際ハーフマラソン大会、国際マラソン大会が開催され、在留

邦人も多数参加の予定です。レース前日まで申し込み可能です。リレーで走ることもできます。



K&Hミニマラソンリレー参加者の集合写真

リレー大会に大活躍

兼子 秀昭

昨年に引き続き、日本人学校では多くの児童生徒がこの春のリレーマラソンに参加をさせてもらいました。5月のフローラ女子リレー大会（1・5キロ x 3）には総勢25名の本校関係者、6月のK&Hリレー（2・1キロ x 3）には36名の本校関係者、合わせればなんと60名以上の参加がありました。その中には昨年までには見られなかった傾向も現れ出しました。

昨年までは児童生徒のみの参加で、保護者は付き添いや応援でしたが、今年度は保護者チームや教師チームの参加も見られたのです。本校でのマラソン熱の高まりを示すものではないでしょうか。

練習でも、その高まりは現れました。どちらのマラソン大会に向けても昼休みを中心にして、練習を積ん

だわけですが、ある日小学部の低学年の児童が「先生今日も走りたいなあ」と言いました。その日は大変暑い日で、走らせるのに無理があるかと判断したのですが、子どもたちの身体は、もう走りたくてうずうずしていたのですね。児童生徒の感想を見ても、継続して取り組んできた成果が現れました。昨年の記録を意識して大会に臨む生徒もいたのです。

「継続は力なり」とはよく言われますが、マラソンについては練習のみに使われるような言葉です。しかしながら、継続して取り組むことでさまざまなところに波及効果があることがわかりました。これも「継続は力なり」の現れでしょう。さて、今後はどんな「継続は力なり」が現れるのか楽しみでもあります。

最後になりますが、毎回日本人学校のために、申し込みや当日の受付を行っていただいている盛田部長に学校より感謝申し上げます。日本

人学校の「マラソン熱」を支えてくださっている大きな力です。

久しぶりのマラソンを走り終えて

向井 初美

まさかここブダペストで、マラソン大会に出場することになるとは。数ヶ月前には夢にも思わず、1・5キロなら何とかゴールまでたどり着くことができるかもと思い、お友達のお母さんと思い切って3人でリレーに出場することになりました。久しぶりに握るバトン・沿道の応援・賑やかなマラソン大会の放送、すべてが新鮮で苦しいけど楽しい。あつという間の1・5キロでした。次回も機会があればまた挑戦したいです。



マラソンが私に与えたもの

西城 敦子

このマラソン大会が、私にとって大きな意味を持つなんて思いもしませんでした。

今まで子育てをしているということを書いて、何事に対してもしっかりと向き合ってきたことを、ためらってしまいました。そんな私がこの大会に参加することは、とても勇気のいる決断でした。しかし走り出してみれば周りの方の応援にもかかわらず、前だけを見て一歩一歩進んでいる私がいきました。チームでがんばったという連帯感と走り終えた安堵感で、心地よい疲れが残りました。

私は少し自信を持つことができませんでした。そして今後もいろいろなことに挑戦していきたいという欲ま

で出てきました。

今回このようなすてきな機会を

与えてくださった方々に感謝しています。ありがとうございます。

また参加したい

江森 雅美

私は1、5キロのリレーマラソンに参加しました。マラソンは何十年かぶりでもとても緊張しましたが、会場が和やかな雰囲気でした。走ることができました。前走者からバトンを受け走り出すと、皆からの声援と一緒に走った走者とは「頑張っただけ」と声を掛け合う。ゴールでは温かい拍手、チームメイトの「お疲れ様」の言葉。嬉しさが込み上げ、参加したことを心から「良かった」と思いました。いっしょに走った娘も同じような思いを持ってくれたと思っています。また機会があればぜひ参加したいと思っています。

フローラ女子リレーに参加して

小学部5年 園田 朱音

私がマラソン大会に出たのは、友達から「いっしょに走ってみる？」とさそわれたからです。それから外で何日か練習しましたが、すぐにつかれてしまい、本番が心配でした。そして当日、走る前は全くきんちようせず、「さん、にい、いち」の合図でいっせいにスタートしました。走っているときはなぜか楽しかったの、スピードをあげてみました。するとゴールが早く感じました。みんな走ったせいかな、とても楽しく走れました。

小学部6年 浅野 柊

マラソンの日、私は初めて1・5kmを走るのでとてもきんちようしていました。そして始まったそのとたん、泣き出しなくなりました。それくらいきんちようしていたの

です。最後終わったときには1・5 kmが走れたことだけで感動してしまったほどです。マラソンに出てよかったことが二つあります。一つ目は体力がついて自信がついたことです。二つ目は目標が達成できたことです。また、走れる機会があれば挑戦したいです。

中学部1年 古賀 絢子

私は初めてこのマラソンに出た。走っているときはすごく集中していた。頭の中は、前に進むことしか考えていなかった。

そしてバトンを渡したとき力が抜けた。喜びと達成感を実感したのと同時に、走ることに楽しいなって思えた。秋の3・5 kmのマラソン大会も出場しようと思っている。また、走ることが楽しいと思えるといいなあ。

中学部2年 渡邊 菜月

心臓がばくばくいってる。私は休まず、体操をした。まるで壊れたロボットみたい。それくらい緊張していた。

最初はマラソン大会に強い意識を持っていなかった。だが、毎日の練習で日に日に緊張感が高まっていた。休日の直射日光の中、ハーハー言う犬のようになりながら走ったこともあった。早く走れることを願いながら。

そして、「ハーロム、ケットウ、エッジ、パーン」。今、鉛のついた重い足を大きく前に出した。プレッシャーという鉛のついた足を。



K & H マラソンリレーに参加して

小学部5年 明原 摩奈

「がんばれー」私はその声に背中を押され、いつもより足早にスタートを快調にきった。しかし、1キロメートル手前くらいからだんだん足が重くなっていた。5分10分とどんどん時間が過ぎていく。2キロ地点を越えたときたくさんさんの応援の声が聞こえた。

私は最後の力をふりしぼり、全力でゴールまで走った。そのとき何人かは追い抜けた。タイムも順位もよかったわけではないが、完走できたことに満足だった。

小学部5年 兼子 美樹

私は、お母さんと妹とチームを組んで大会に出ました。最初は家族と走るなんて・・・と思ったけれど、やってみるとこれもハンガリーで

のいい思い出になりました。

ドナウ川やブダの王宮、国会議事堂などのきれいな景色を見ながら走るのは、とても気持ちよかったです。みんなからの応援の声も私をがんばる気にさせてくれました。これを機会にまた、ほかの大会にも挑戦してみたいと思います。

小学部 6年 小林 亜海

私はマラソンに出るのは3回目でした。1、2回目も参加したのは女子マラソンリレーで1・5 kmでした。学校の授業では2 kmしか走ったことがなかったし、1・5 kmのマラソンしか出たことがなかったので不安でした。しかも第一走者だったので、よけいに緊張しました。走っているときはとても楽しかったです。とても心に残りました。来年も出ることができたら参加したいです。

小学部 6年 鏡 浩太郎

ぼくはマラソン大会に初めて出た。第一走者だったので緊張した。スタート地点に立ったとき、「よし、10分以内で走ってやる」と心に固く決心した。「パーン」という音とともに走り出した。途中疲れて歩きそうになった。でもみんな一生懸命走っているの、負けてはいられないと思います。あきらめずに走り続けた。残り70メートルのところでは全力疾走した。目標は達成できなかったけれど、自己ベストだったので、よかった。また走りたい。

中学部 2年 木村 健

ぼくは半分は思い出作りのために参加しました。大会当日、ぼくは起きたときから緊張していました。この緊張は走る直前まで続いています。でも、走り始めたなら何も考えることなく完走することができました。おかげでほぼ全力を出すこ

とができ、帰国前のよい思い出となりました。ただ悔いの残ったことは、もっともっと全力で走れば記録が伸ばせたかなともうことです。

中学部 2年 橋本直樹

春の風が過ぎ、夏の風が吹こうとしている今、ぼくは再びこの戦いの場に戻ってきました。昨年の成績を超えるため、小さな努力をしてきました。

昨年は走路を間違える失敗をし、チームの仲間に迷惑をかけました。あげくに順位も下がってしまいました。しかし今年はチームのみんなも少しずつ努力をしてきたため、一人が8分程度で走ることができました。以上の成績となることができました。リレーマラソンで学んだことは「努力の後には喜びが待っている」ということ。これを信じて、来年も同じメンバーで再び挑戦したいと思います。またあの戦いの場で。

ハーフ・マラソンリレーに参加して

山内 淳子

6月8日のK&Hマラソンリレー。この大会は私にとって4月の「T・COMヴィヴィチッタ」、5月の「フーラ女子」に続き、ハンガリーに来てから3回目のレース。今回はハーフマラソンリレーということで、前回までの個人ロードレースとは異なり、3人でチームを組んで、1人7kmを走ります。

個人レースは自分との戦いですが、リレーとなると自分だけではなくチームの連帯感、そしてバトンを次の走者に少しでも早く確実に渡すという少し緊張感が生じます。この心地よい気持ちを味わいたいと思い、出場することを決めました。そして、小学二年生になる娘にもそのような気持ちを小さいうちから培ってほしいと思い、クラスメイトを誘ってミニマラソンリレーにも参加すること

にしました。

マラソン大会の2週間前にチームのメンバーと、ミニマラソンの2・1キロの国会議事堂周辺のコースを下見に行きました。観光シーズンを迎えたブダペストでは絢爛豪華な国会議事堂の見学ツアー客の人の並み。「あゝここを走るんだ」。ハンガリーへの転居が決まったときにガイドブックで初めて見たあの美しい国会議事堂の前を走ることができるのかと思うととても不思議な感じがしました。私は、国会議事堂、ドナウ河、そして2番トラムが走る3拍子そろった風景が最もハンガリーで好きなので、この大会を何よりも楽しみにしていました。

前日から天気が荒れ模様となり心配しながら床についたところ、未明に屋根にあたる大粒の雨の音で目を覚ましました。「早く止んで」と祈りながら目をつぶりましたが、心配でその後は熟睡できませんでした。朝

になりなんとか止んでくれた雨。8時45分に集合場所に向かったら、既に日本人学校の生徒、先生方が集まっており、準備体操が始まりましたが、その頃からまた雨が降ってきました。「みんな一生懸命に走れば、お天気も回復してくれます」との校長先生のお話どおり、9時半のスタート時点では雨も止み、会場は熱気を帯びたお祭り騒ぎのような楽しい雰囲気になってきました。日本ではマラソン大会に参加したことはありませんが、この雰囲気とはだいぶ違うのではないのでしょうか。ハンガリーならではの盛り上がり方なのか、ヨーロッパではどの国もそうなのか分かりませんが、とにかく楽しい雰囲気です。

スタート合図とともに第一走者が飛び出しました。私は第二走者だったので第一走者が戻ってくるのを待ちました。日本人学校関係者が戻ってくる度に「ヤパンイシュコラ」と

放送が入り、とても嬉しく誇らしく思えました。チームの第一走者が速いペースで戻ってきました。私は大事なバトンを受け取った後、雰囲気になれマラソンなのに思わずダッシュしてしまいました。が、気を取り直し、すぐにマイペースに戻しました。

その後、しばらくドナウ河沿いの観光船などを見ながら、また沿道の声援を聞きながら気持ちよく走りました。そのうちあの国会議事堂が見えてきて、「本当にここで走っているんだ」と実感し、またまた嬉しくなりました。ゴール近くになり、前の人を抜かせそうで抜けない自分に年齢を感じながら、最後は苦笑しながらも第三走者に無事にバトンを渡すことができました。その後、日本人学校の他の出場者を応援し、低学年もみんな無事に走り終えたことを確認してから、主催者側が配っているノンアルコールビール、そして保護

者の方が持ってこられたビールをほんの少しいただきました。とってもおいしかったです（でも本当はもつと飲みたかった）。マラソンは走っている間は苦しいときもありますが、走り終わったときの爽快感がたまりません。今回一緒に走ったメンバーで後日、打ち上げをするのが楽しみです。走ったところも多分にあります。

実はこれで終わりではありません。11時スタートのハーフマラソンリレーにも出場することになっていたため、走り終わった後の余韻にひたる間もなく、日本人会の事務所に向かいました。そこで一緒にチームを組むハンガリーの女性と初めて会い握手をしました。彼女は第一走者と第二走者を兼ねて走るためゼッケンを2枚重ねて付けていました。私はそのとき、彼女が14キロを走るのを知りびっくりしました。彼女から第三走者としてバトンを受け取り、果たして最後まで無事に走れるのか

と。しかし彼女のスタートまでもう時間がありません。私は彼女の顔と髪型、そしてランニングウェアを覚えたものの、急に髪の毛を結びだしたため、慌てて髪型を覚えなおしました。

この大会には当初ミニマラソンだけ走る予定でしたが、5月の「フロラ女子」の際、初めてランニング部長の盛田さんとお会いして、「ハーフマラソンリレーでハンガリー人と日本人の混合チームを作ります。1人足りないので走ってください」と言われて決めたものです。迷いましたが、「ハンガリーの人とチームを組むことはここにいる間しか絶対できないし、大げさに言えばハンガリーと日本の架け橋にもなれる」と思い、残された3週間で練習することを決めました。しかし、練習嫌いな私は週に1回程度、短い距離を練習しましたが、7キロ練習はのびのびにしていました。大会の3日前になり、

さすがこれではまずいと思い、マルギット島に走りに行きました。それでも、本番は2・1キロのミニマラソンリレーを走った後に、さらに7キロなのでとても不安なまま、当日を迎えました。

日本人会事務所に張られたグループごとの走者リストには、第一走者と第二走者を兼ねたジュジャが12時10分〜15分の間に到着と記してありました。14キロも走るのに到着時間が予測できるなんてすごいと思っていたら、本当に12時13分に戻ってきました。しかし、その時の彼女は私が覚えていた顔でもラニングウェアでもありませんでした。色白の彼女の顔は紅潮しウェアは汗で色が変わり、「えっ本当？」と心の中で叫びながら、ゼッケンナンバーを確認しバトン(架け橋)を受け取りました。バトンは彼女のがんばりを物語っておりかなり湿っていました。さっきまで全く知らなかった

彼女と何か一体感を覚える不思議な感覚を味わいながら走り始めました。コースも知らずに走り出したのですが、マルギット橋を越え、アールパード橋近くで折り返し、国会議事堂の後ろを通り抜け、鎖橋を過ぎたところまで走り、そこで折り返して国会議事堂まで戻るコースでした。朝の天気とは全く違い、燦燦と太陽の光が降り注ぐ中走り続けましたが、彼女が力をくれたのか、沿道の声援のお陰か思ったほど苦しくなく走ることができました。しかし、マラソンリレーに出場している人は日頃からしっかり練習しているのでしょうか。走り方もしっかりしているし、速いのでいっぱい抜かされました。彼女が貯金してくれた分をだいぶ使っちゃってごめんねと思いながら走り終えました。ゴールタイムは1時間51分でした。それでも自分の予想していたタイムよりは速めにゴールできたので、結果オーライかなと自分

に甘く評価してみました。走り終わったあと、今度は思いきりノンアルコールビールを楽しみました。

この大会ではミニマラソンリレーに150組が、マラソンとハーフマラソンリレーに1000組程度が出場したそうです。そして大会のホームページには、全出場者の名前とチームのタイム、写真そして動画まで掲載されており、ブダペストのマラソンに対する関心の高さ、そしてマラソンを愛する気持ちが十分に表れた大会だったと思います。

異国の地でこのようなすばらしい体験をさせていただき本当にありがたい感謝の気持ちでいっぱいです。今後、国会議事堂をみる度にこの大会のことを思い出すことでしょう。もし、今、マラソン大会に出場しようか迷っている方がいらっしゃいましたら思い切ってこのすばらしい体験を味わってみてください。絶対に後悔はしないと思います。

マラソンリレー初参加

大使館チーム 保坂 昌宏

6月8日(日)午前11時、司会者とランナーと一緒にスタートのカウントダウンをするという、少し不思議な盛り上がりの中、レースはスタートしました。

そもそも、6人で42・195キロ走るというやや無謀なレースへの参加を決めたのは、レースの2週間前で、完全に思いつき。そんな無計画で無謀な思いつきは、5名のボランティア精神溢れるメンバーの協力により実現することとなったのです。メンバーは私も含め7キロもの長距離など、高校卒業以来走ったことはないのではという、ごくごく平凡な30代から40代の男性陣。しかもほとんど練習せず、ぶっつけ本番で当日を迎えてしまいました。

我がチーム第1走者は、メンバー中最高齢ながら、ジムに通い鍛錬を

怠らない、期待のN氏。他走者にひけをとらない果敢なスタートダッシュを見せ、みるみるうちに遠ざかっていきました。いい感じかも。

しかし、事件は突然やってきました。「N氏が倒れて救急車で運ばれた」との連絡。この一報を受け、もうレースどころではなくなりました。

ひたすらN氏の無事を祈る一同。すると、N氏とハンガリー人負傷者1名を載せた救急車が中継地点の救護センターにやってきました。固唾を呑んで見守る中、N氏は自力で救急車から降りてきました。不幸中の幸いで、N氏は意識を失ったわけではなく、足が動かなくなっていました。ただこのこと。水分を充分取り、休養して事なきを得ました。ほっ。

レースの方ですが、これでリタイアというわけではなく、N氏が最後の力を振り絞り救急車でバトンを中継地点に運んできたおかげで、レースは続行できるとのこと。その後は、

第2走者から第6走者までなんとかバトンをつなぎゴールしました。別にチームで一生懸命練習したわけではなく、特段強い団結力があつたわけでもないのですが、アンカーがゴールした瞬間は、みんなで何かを成し遂げた感があり、感動しました。

さて、気になる記録は3時間54分54秒、順位は536チーム中413位！結果は自慢できるものではありません。でも、大会後、リベンジに燃えジムでの鍛錬に励む人、運動不足に気づいてランニングを始めた人がいるらしく、将来につながるレースであったと勝手に前向きに総括しています。

最後になりますが、休日にもかかわらず応援に駆けつけてくれた同僚、奥様方に心よりお礼申し上げます。



釣り部

Nさんの執念（オーストリア・

グムンデンのトラウン川）

関本 正

釣り部立ち上げの時の二人のメンバーの一人Nさんがハンガリーを去る事になりました。

帰国前に欧州の釣りを堪能しないと成仏出来ないNさんの事を思い今年は早春より何回か釣りに出かけました。氷の張ったそれは寒いエトラツハ湖(Etrachsee:爆釣の湖)にも行ったのですが、過去何度も書いてますので割愛し、この度は世界的に有名なグムンデンのトラウン川(Gmundner Traun)の報告をさせて頂きます。

このトラウン川は風光明媚なザルツカンマーグート(Salzkammergut)にある幾つかの湖の一つトラウン湖より流れ出す世界的に有名な鱒川で

す。19世紀末より英国、ドイツ、オーストリアの王室・皇室のメンバーが大物釣りに訪れ、ホテル・リッツの二代目御曹司シャルル・リッツが毎年夏の休暇を釣り三昧で過ごし、リッツの友人アーネスト・ヘミングウェイ、後の米国大統領になるアイゼンハワー将軍も釣りに訪れた川です。兩岸は深い緑に覆われた斜面が続き、昔は鮭と間違え程大きな鱒と大型グレイリングで有名で、往年の輝きはないものの、今も大物鱒が上がる川です。

それまでは何となく敷居が高く行った事がなかったのですが、解禁が一番早かったので4月中旬思い切って行く事にしました。Nさんと谷川(名人)と一緒にです。

宿は Hotel Marienbruecke というリッツの定宿だった釣り宿です。途中迷いながらもブダペスト出発から5時間程で宿に到着、チェックイン、釣り券購入を済ませます。ホテルには釣り人が集まり庭では10人くらい集

めてキャスティングの指導をやります。指導しているのはスイスの有名な釣り師 Hebeisen 氏、日本でいったら、昔は11PM釣りコーナーの服部名人、最近では岩井溪一郎(知っている人はいないでしょうね。。。)という感じの、兎に角その道の御大です。

地元の釣り人っぽいオジサンにポイントを聞くと、「オメエなあ、深場によろ、シンキングラインでストリーマーをぶち込まなきゃ、ダメだべえ！オメエら、そなたがちゃっちゃい道具で何しようつうーの(オーストリアの田舎は訛りが強いのです)」とのご託宣です。春の川は冷たく増水しているので、魚は深場でじっとして、目の前を小魚が通る時だけ食いつくのです。

我々はお上品にドライフライ、ニンフという羽虫のイミテーション毛鉤といういつもの道具立てでした。先が思いやられます。とりあえず川には下りたのですが、水が多く流れが急です。それに水はまだ冷たいニウエーダー

越しに水の冷たさが身にしみます。

初日は結局三人ともボーズ、二日目に執念のNさんがフライとは思えない小魚ルアーもどきを岸ぎりぎりにしつこく流し込み、40センチくらいのブラウントラウトを釣り上げました。谷川(名人)と私は二日やってボーズという最低のシーズンスタートでした。

二回目の釣行は気温も上がり、虫も出てきただろうと思われる5月の末で、Nさん、Wさんと一緒に釣行でした。羽虫の情報も仕入れ、夜なべ仕事でそれにふさわしい毛鉤も巻き準備万端です。

ホテルに荷物を降ろし釣り券を購入、川に向かいます。初回に行った事のある釣り場に行き川を見ると「水がやけに多いねえ」。雪解け水の流入で前回早春の時よりも水が多いのでした。川にはあまり入れないので岸際でパチャパチャ釣りするしかないのです。魚は時々跳ねるのですが、それも

川のだ真ん中でとても我々の毛鉤は届きません。フラストレーションに身を焦がします。暫くしてNさんが一匹釣り上げます。岸際ぎりぎりに流して釣ったそうですが、蛭が一杯ついたブラウン・トラウトでちよっと触る気にならない魚でした。その後釣り場を変えたりしたのですが状況は思わしくなく、初日はまたまた不満足な結果でした。

二日目、後ろが開けてフライキヤステイニングがしやすい釣り場を選んで入溪しました。そこは浅場なのですが、なんと魚がうじゃうじゃいます。60センチ以上も何匹かいます。Nさんはすっかり興奮、我先に竿を出します。朝9時くらいから釣り始め毛鉤をこれでもかと流すのですが一匹も咬えません。何か餌を食べているのは間違いないのですが。。。川に立ち込んで数時間、魚が結構近くにいたので足元をふと見るとウェーダーの表面に何か白いものが沢山ついていきます。それは

無数のちいさな白い糸ミミズ、つまりユスリカが朝から大量に羽化していたのでした。道理で我々の毛鉤ではない筈です。

ユスリカのような極小の虫に合わせた毛鉤は持つてませんし、そもそもそんな毛鉤では釣りになりません。そこでそれまでの一本針仕掛けに枝針をつけ全部で3つのウェットフライ(沈毛鉤)のチームにし、特にユスリカが出る時に効果ありと言われるSilver March Brownを一番先の毛鉤とし、他はシルバーボディーでキラキラ光る毛鉤をつけました。

三つの毛鉤を川の流れに合わせ下流に自然に送り込み、魚がもぞもぞ動いている所の手前でストップさせ、毛鉤に動きを与えます。数回それで試してみると手元にコッソンと当たり！！間髪入れず合ませます。ヤッター、かったです。念のため再度合わせをくれます。と、魚は動きだしました。強い流

れの中で上流、下流に泳ぎまわり、その度リールから糸を10ヤード、20ヤードと引き出します。丁度その日は8フィート5インチの短めの竹竿を使っていたので竿は満月、何時糸が切れるか針が外れるか気が気でありません。でも、竹竿の良いところは粘り

強さ、衝撃を竹の穂先がうまく吸収し細い糸もなんとかもつてます。ようやく魚が疲れて寄ってきたので見ると銀色の虹鱒です。しかもデカイ。虹鱒君は人間の姿が見えたので力を振り絞り遁走します。激流の中ですから大変な捕り物です。NさんとWさんの二人のギャラリーの前なので部長の貫禄は守らねばと無理をせず時間を掛けて取り込む事とします。15分、いや、それ以上？、どれだけやり取りしたでしょうか。力を振り絞った虹鱒はNさんが差し出した玉網によく納まりました。47センチの別嬪さんでした。

別嬪さんを見たNさん、Wさんは興

奮しその後毛鉤を何度も流したのですが、我々が釣りをしているとところにビキニのお嬢さんが日向ぼっこに來るといった邪魔も入り、後が続かず、部長の一人勝ちでその釣行を終えたのでした。

帰国を翌週に控えたNさんは部長の一人勝ちのシーンを見せられて成仏出来ず、釣り部主催の彼の送別会の席で、「関本さん、やっぱりトラウン川にもう一回行けないですかねえ？」「でもNさんは土曜日送別会が入ってるから一泊出来ないですよね？」「そうですね。。。」「でも片道5時間だから頑張れば日帰り出来るかな？」「それ、それ、朝早いのはぜんぜん大丈夫だからそれで行きましょう！」という話になってしまい、6月15日、日曜朝3時出発の日帰り釣行が決まったのでした。

眠い目をこすり時間通りNさん宅を出発、途中運転を交代しながらトラウン川へ向かいます。宿には事前連絡

してあったので釣り券を即購入、8時過ぎには川に到着しました。場所は早春にNさんが唯一の一匹を釣り上げた場所の近くです。

到着と同時にNさんはあつという間に身支度し川におりました。ダウン・クロスで下流にウェットフライを流し込む釣り方です。こちらはまだ眠気でボーっと身支度しているのに川ではNさんの歓声が聞こえます。「かった！！」。Nさんの竿は日本の溪流用の華奢な竿で根元からぐんぐん大きく曲がっています。最初の一匹は41センチのブラウン・トラウトでした。私がようやく川に入った頃には、Nさんもう数匹釣り上げてました。過去2回の不調を払拭する絶好調な滑り出しです。

午前中、魚は活発に餌を追ってました。私は前回で味をしめた毛鉤3本チームを上流に向けてキャストし自然に流します。当たりを竿で取るのは難しいのですが、魚の動き、糸の不自然

な動きを目印に合わせます。Nさん程ではないですが、私にも40センチを筆頭に数匹釣れました。

相変わらず絶好調のNさんに様子を聞くと、「いや針を伸ばされて逃げられました」、「この竿じや全く寄せられない大物で糸を切られました」とかとても景気が良い話ばかりです。こちらはお昼近くで魚の動きが鈍くだんだん釣りにならなくなったのでちょっと場所を変えて下流に行きました。

下流で一時間以上やったのですが魚が出ず、もう2時になったので再び前の場所に戻ります。ちよっとやって時計の針は2時30分。その晩フェリヘジ空港に客の出迎えがある私を慮ってNさんは2時45分で上がりましょうと言ってくれました。残り15分、エキストラ・タイムです。最後の一投は朝最初にやったポイントで上流に向かって投げました。

上流から流れてきて丁度私の真横の方向に毛鉤が来たとき、水面下でギ

ラリと魚が光りました。とっさに合わせた瞬間、魚は大きくジャンプします。綺麗な虹鱒です。こいつは糸を引き出し、ジャンプを繰り返し、こちらは何時針が外れるかドキドキです。時間もないので力勝負。玉網に納めたのは案外小さな39センチの虹鱒でした。

その虹鱒を網に納めた直後、Nさんが「かかった」と叫びます。華奢な竿はまた満月にしなり、かかった魚は流れの中を右に左に泳ぎまわります。大暴れです。Nさんのフライトを写真数枚に収め見る事数分、Nさんは見事に欧州最後のブラウン・トラウトを仕留めたのでした。

エキストラ・タイムでのワン・ツー・フィニッシュ、世界的に有名なトラウソ川でNさんのまさに絵に描いたような釣りのフィナーレでした。

これまで2年程、駄文にお付き合いました。在を終え帰国する事となりました。この文が皆様のお手元に届く頃は日本

にいるものと思います。中東欧の釣りの思い出、そこから知り合った人達とのお付き合いを得た事は、私の人生の宝物です。

釣り部の後任部長には、何故か「名人」の称号を持つ、谷川さんに就任頂く事となりました。皆様のご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

皆様 初めまして。

この度、御帰任される 関本さんの後を継ぎ、釣り部部長をさせて頂く事に成りました谷川浩明と申します。

部長と申しましたが、「ただ釣り層がある」というだけで部長になったようなもので、

イカシすぎ！

・ ・ ・ 関本部長の後任は、正直私で務まるのか非常に不安です。

日本人会 並びに 釣り部の皆様には、ご迷惑をお掛けすることが多々あると思います。その際は、どうかご指導、ご協力をお願い致します。

テニス部

アマチュア・テニス試合初出場

横地 仲介

ハンガリーのアマチュア・テニス大会に行ってきました。会社の若手ハンガリー人の部下と2人で初出場です。

場所はバラトン湖の北にあるバラトンフレドという町。6月7日（土）6月8日（日）の2日間にわたって行われました。試合はシングルスとダブルスの両方に出場しました。

ブダペストは前日からの大雨で試合は無理かとも思いましたが、バラトン湖だし天気もブダペストとは違うだろうからと、とにかく出発。ブダペストから車で1時間半で試合のあるテニスクラブに到着。朝は曇りでしたがテニスは出来るコンディション。

午前9時から会社の若いのとウーミングアップ。ここはコートが4面あるので隣のコートなどで他の選手もすでに練習を始めていました。私もテニスはまだまだで人のこ

とをコメントできる立場ではないですが、他の出場するハンガリーの練習を見ていると「なんか滅茶苦茶な打ち方しているな」。これならひよつとして勝てるかも？」などと淡い期待を持ち始めました。これが後に覆されることになります。

10時までに出場選手が集まり対戦表が出来上がりました。シングルスの出場選手は15人。地元近辺の人達が集まった感じの小さな大会です。

ハンガリーのアマチュアの大会はAカテゴリーとBカテゴリーがあります。ハンガリー又は海外の公式ランキングの100位外の人なら誰でもアマチュアの試合に参加できます。もちろん日本人も参加できます。

AとBの違いは、Aのカテゴリーの方がBよりも上手といったアバウトな区分けです。この大会では人数も少ないのでAとBを混ぜて試合をすることになりました。

私の第一試合はAカテゴリー。相手は39歳（私はちなみに41歳です）の気のよさそうな人、強い玉は打ってこないけどボールのコントロールが上手く、ちよつとでも遅くゆるい球を返すとすぐコートの端のほうにボールを返されます。だんだん相手のパターンが読めてきました。どうも体が思ったように動いてくれず、そのうち自分のリズムを崩し始めミスの連発で自滅パターンに陥り試合は9ゲーム先取制で結果は9、3で私の負け。勝てると思った相手でしたが圧倒的に私のミスが多すぎました。

30分くらい休んだ後に今度はBカテゴリーの相手との試合。今度は190センチ位ある体格のいい3

0歳位の相手、練習で打ち合いでも前回の相手と比べ物にならないほど球は速いしボールが重い！この人本当にBカテゴリー？と思いました、まあ1ゲームでも取ればいいかという気持ちで試合開始。こちらの相手はパワーがすごくてボールが早く、スピードに慣れるのに少し時間が必要ですが、それからはこちらの挽回。

初めの緊張感もなくなりリラックスし始めてきたせいか、相手の打ってくるコースが分かりやすくなってきました。それとこれは他のハンガリー人選手にも同じなのですが第二サーブが極端に遅い！1ゲームでも取れたらと思うけど「これは上手いけば勝てるかも？」またまた淡い期待。相手もミスが多くなり始めて6・4くらいまで追いつきました。

しかし今度は私のミスが出始めました。このところ不調のバックハ

ンド側にボールを返され始めて調子が狂い始めまたまた自滅パターン。結局9・5で負けました。やはり試合慣れというか場数を踏んでいかないとだめだな、と感じました。練習ではキチンと出来ることが試合で出来なくて自滅的なミスが多すぎでした。

試合後に日曜テニスの的場さんが家族で見に来てくれて一緒にハンガリー人の試合を見ました「サーブ・アンド・ボレーならハンガリー人に勝てる」と短時間のうちに見抜いたのはさすがでした。

なぜならその後の試合結果で分かったことですがシングルスで3位の人が「サーブ・アンド・ボレー派」でした。やせ気味の50歳位の選手で20歳くらいの血気盛んな相手をひょうひょうと言った感じで負かしたり、また他の強豪選手を負かしているのを見てテニスの奥深さを感じました。

このあたりから太陽が出て天気

は真夏日のよう。お昼はテニスクラブのオーナーがグヤーシスープを外で作りみんなで昼食。ビールが本当に飲みたい気分でしたが午後はダブルスの試合があるので断念。でもダブルスは会社の若いハンガリー人と組んで全敗でしたのでこれなら飲んどけば良かったと、後悔先に立たず。

試合結果はダブルスもシングルスも40歳後半から50歳前半の人達が若いのを下して上位に入っていました。

負けてばかりでしたがいつもと違う人達とテニスが出来て楽しくすごしました。これから草試合に出て今後はもっとシングルスを勉強していくつもりです。

この時期あちらこちらで草テニストーナメントがあるので興味のある方は参加しませんか。バラトン湖近くの町での試合も多いので家族と一緒に来て週末のバケーションも兼ねる事ができますよ。

ペアマッチテニス大会

石川 正和

今回は先日、開催されましたペアマッチテニス大会について報告します。参加者は日本人テニス部の土曜部と日曜部から志願者16人8ペア。場所はBSEテニスクラブ。形式は4ゲーム先取。2つの総当り予選リーグの後、決勝トーナメントと下位トーナメントで順位を争いました。ペア決めは土曜部と日曜部で混合となるよう、クジ決め。

さあ、いよいよ試合開始です！
第一試合、皆さんもいつもと違うコート、違う顔ぶれで緊張している様子。そして、雨上がりでコートが緩くなっており、イレギュラー続出。真横に撥ねるスライスサーブ？垂直に撥ねるスピンサーブ？まるでアニメの「テニスの王子様」を見ているかのよう。しかしながら、そんな悪条件の中、安定したテニスをしてい

るのが、日曜午前で名コーチとして君臨しているM場氏と、土曜午後でロボの達人と恐れられているM尾氏ペア。順調に勝ち☆をさらっていくきます。そのペアに★を付けたのが、土曜午後同士ペア（例外）のO黒・T田ペア。お二人共フオアハンドが得意の似た者同士。今回の快調の原因はO黒氏のファーストサーブが絶好調だったとの事。

そんな熱戦を繰り広げている横で、豊D氏と小生のペア。勝てない・・・試合時間は他の試合と大差無いのであるが、毎回ゲームを離されて負けてしまう。時間がかかるのは小生の行動がダラダラしているからだろうか？まあ、じっくり考えてみれば、理解出来る。他のペアの強い、というよりずる賢いのだと。基本的にテニス人は人がいない所に打てばポイントとなるスポーツ。その点に長けているのが、日曜午前のS木氏と土曜午後のN村氏。そして、多分、私

もその同類。

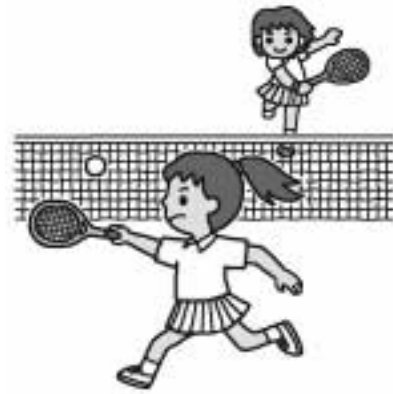
そして、大会は次のトーナメント戦へ。もちろん、我々のペアは下位トーナメントへ。

トーナメント初戦、相手は土曜午後のA木氏、日曜午後のI橋氏。A木氏はイケ面でテニスも巧く、性格も良い（が、テニスに顔は関係ない！）。I橋氏は策士、不意な球で照準を絞らせない。やはり、勝てない。

あれよ、あれよと負け続け、気づいたら最下位決定戦。相手は日曜午前のS木氏と、土曜午後のH本氏。お互い負け続けた同士、レベルも近い為、試合は大接戦に。と言うより、泥試合へ突入。気づけば2・2となっていた。第5ゲーム、サービスはH本氏。派手さは無いが（すみません）、落ち着いたテニス。ラリーが続く。そんな中、飛び出したS木氏のドロップボレー、足が動かない・動けない。しかし、このゲームは相手のミスが重なり、ラッキーにもゲット！

3・2となって、小生のサービスゲーム。なにやら、雲行きも妖しくなってきた。人は緊張すると、一時的に記憶喪失となるのだろうか？頭の中を過ぎる、「テニスって、どうやるんだったつけ？」ここから先は、あまり記憶ありませんが、何とか泥試合を制して、ブービー賞となりました。

決勝はM場・M尾ペア対O黒・T田ペア。試合開始し、サーブ絶好調のO黒氏がキープした瞬間、大雨が降り、そのまま試合不可能。優勝は、O黒・T田ペア、おめでとうございます。小生の組んで頂いた豊D氏、お疲れ様でした。また、今回ご紹介できませんでしたが、個性豊かな部員の方々お疲れ様でした。いつもと違う顔ぶれでテニスが出来て楽しかったです。また、コート以外でも交流を深めていきましょう。



日曜午前テニスのお知らせ

的場 英門

日曜午前テニスはAM9:00～11:00の2時間 **VAROSMAJOR** のコートを2面使用しワイワイガヤガヤと楽しくやっています。

現在、正式メンバーは男性14名、女性5名が所属しています（スポットで参加されている方もいらっしゃいます）。

通常、ウォーミングアップの後、2面共に試合をしていたのですが、昨年末より1面は試合（経験者）コート、別の1面は練習（初心者）コートとして新たな活動を開始しました。

日曜午前チームは経験者から初心者までが気軽に参加出来るチームというのが売りなのですが、初心者であっても試合に参加して頂いていたのですが、「あまり楽しめていないのでは？」という思いがありました。そこでメンバーから「初心者向けの練習をしましょう！」意見があり、小生が球出しを担当させて頂き、現在に至ります。

練習開始当初はラケットの真ん中にボールが当たらない方や、ホームラン！連発の方など、皆さん中々苦労されていました。小生もテニスを始めた頃、同じような事をやっていましたが、テニスのラケットは大きいようで真ん中に当てるといのは

本当に難しいんです。

お恥ずかしい話ですが、今でも真ん中に当たらない事がしばしばあったりします。。

練習開始から半年が過ぎ、初めから参加されている方は今では十分に経験者と一緒に試合が出来るレベルまで上達されており、中には経験者にも劣らないすぐ早いサーブを打たれたり、ストロークが安定されている方もいらつしやいます。日曜の練習以外に素振りや壁打ち、またはテニスのフォーム等を勉強されている方がいらつしやるようで皆さんの上達のスピードが非常に速くとても頼もしいです。

また、経験者の方もどんどん新しい経験者の方が参加されておりお互いに良い刺激を受けているようです。という小生も球出しをしながら「試合に参加したい！」と思う事があります。くらい熱い試合をされている事もあります（見ていても楽しい試合です）。

練習内容としては、15分〜30

分のウォーミングアップ（2人ペアでストローク）を済ませ、フォアー・バックの基本練習（1本打ち・2本打ち）、フォアー&バックボレー、サーブ、最近はダブルスの試合形式を始めています。特にフォアー・バックはテニスの基本中の基本ですので重点的にやっています。

テニスの練習方法や指導方法については色々な意見もあるかと思いますが、日曜午前テニスでは

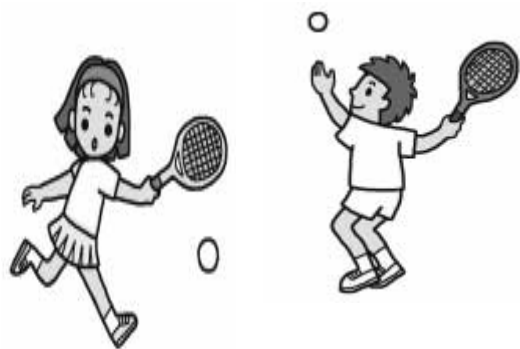
1. ラケットを早く引く
2. 体は開かずに打つ（きちんと踏み込む）
3. アウトするならネットアウト

ではなくてバックアウト（当てるだけなくて、ラケットを振る）の3点を特に注意するようにしています。

テニスには色々な技術や考え方、作戦なんかがありますが、家族や友達とテニスを楽しむという部分では、

まずフォアー&バックが出来るようになる事が大切で、その二つが無難にこなせるようになれば、誰でもいつでもテニスを楽しむ事が出来ると思っています。

最近は参加者が多い時があり上述の3点について中々全員を見る事が出来ないのが悩みどころでしたが、他の経験者の方が一緒になって練習に参加してくれますので非常に助かっています。



ゴルフ部

パンノニアゴルフコース

山田 進

いよいよハンガリーもゴルフシーズンの到来となりました。紺碧の空に白球を打ち込む爽快感と緑の絨毯に立つ開放感、何ともいえません。さて本誌をお借りしてパンノニアゴルフコースを紹介します。

まず1番ホール、左に池があります。初めは腰の回りも悪く大抵の人は右にボールが行きます。但しAさんは特別、最初から渾身の力で振りぬきます。まあこの人腕っ節もただものではない、何しろ飛ばす事に命をかけてます。続いて2番ホール、飛ばし屋だったら狙いたくなる1オン、Eさんもこのコースで絶対1オンを目指すと宣言してます、今年が楽しみです。手前には深いバンカーもあり、コース設計者の術中にはまったら大変です。

次は見晴らしの良い打ち降ろしの3番ショートホール、ここは風だけに注意すれば良いでしょう。4番ミドルは比較的パーオンし易い。グリーンは砲台です、左はバンカーの餌食に、右から攻めるといっても右は狭い。

5番は結構面白い左ドッグレッグの景色の良いロングホールです。セカンドショットで注意しないと左側の林に捕まる。周辺のラフも重たく、何人もがこの罠にはまっています。6番は定例のドラコンホール、飛ばし屋のSさん、このホールの常連です。非常に綺麗なフォームでシングルハンデです。ピンが手前にある時は厄介です。上につけると大変、パットをするとボールがグリーンからこぼれて、最悪は池の際のラフまで転げ落ちます。

さて7番は難易度の高い左ドッグレッグ上りのコース、左のラフへ入れない事、右には池もあります、打ち上げなのでグリーンは見えません。8番はニアピンショートコースで風の計

算が必要なホール、右手には池やバンカーが。実に旨く設計されています。そして長いロングホール9番と続きます。ここは2打目を刻むかどうか飛ばし屋さんなら考えます、無理して前方の池に入る人を見かけます。私は絶対刻むのですが、3打目で池に入れてしまいます。単に下手というやつです。そしていよいよインへ突入です。この間、ちよつとしたおやつを持参してお菓子、パン、バナナと口にはおぼつてスタートします。

10番は一見簡単なようですが、右がラフ、左にバンカーあり山あり、グリーン右側には池もあり、叩く時は叩いてしまうホールです。次の11番は非常にタフなショートホール、右前方にブッシュがあります。グリーン手前はバンカー群で、グリーン奥もバンカーがあります。グリーンの傾斜も気になる所、ボールが乗ったと思うと、ズルズルと落ちてきてしまうのです。Mさんなんかは地団駄踏んでました。こ

のMさん、お年のわりには青年達とた
めをはって飛ばしてます。

飛ばし方を訊ねたら、フオローの段
階で右足を左足まで引っ張るとか。飛
ばない人は試したら如何ですか。さら
にこのホールはグリーンが旨く読め
ません、ここは傾斜だけを見ても駄目
なホールであり、芝芽も十分注意して
下さい。

ここから12番へ移る時、心臓破り
の丘が待ってます。ブルカートを引っ
ぱりながらはあはあ言いながら一歩
一歩進んで行きます。皆さん常にペッ
トボトルを用意しておくの忘れない
ように、特に夏には飲料を凍らせてお
くとこの頃丁度溶けていて喉越し最
高の飲み物となるのは間違いなし。

12番も高台のコース右下には1
6番を見ながら行きますので、右方向
は駄目、左は高圧線の鉄条網がありま
すので、注意して下さい。こちらにも
曲げては駄目、結局ゴルフは真っ直ぐ
打つ事です。真っ直ぐ打つことに長け

たOさん、距離こそ物足りなさそうで
すがフェアウェイキープ率は一番で
しょう。13番こちらはサービスホー
ルです。バーディを一日一個取りたい
人はこのホールが狙い目です。2駄目
は打ち下ろしで、兎に角グリーンを直
接狙わず手前から狙うと大体オンで
きます。続いての14番のロングホー
ル、ここはショートカットコース（1
5番に打ち込んで行く：通常はやりま
せん）もあります。フェアウェイが遠
いのでラフに捕まりやすい、コース途
中の凹凸やらバンカー、最後はグリー
ン左側の池に泣かされます。15番、
このコースは飛ばし屋さんがドライ
バーでナイスショットすると前方の
林の中にボールは消えます。時々ロス
トボールになるので注意。また左ドッ
グのコーナには棘棘のブッシュと木
で2打目を邪魔してます。コースマネ
ジメントが必要です。

また坂を上って、16番ロングホー
ルです。ここの特徴は右側に続くバン

カーの川です。ウエスタンバンカーと
呼ばれていて、バンカー内でもソール
をつけて打って良いそうです。（ルー
ル：バンカー内ではソールをつけて打
ってはいけない）。

17番これは名物ショートホールで
す。池に浮かんだ島如きに向かって打
ち込みます。池のプレッシャーからか
ボールが池に吸い込まれるケースが
多々あります。池の中には私が寄付し
たボールも山ほどある筈です。少なく
とも何百個のボールが池の底に眠っ
ている事でしよう。（掃除してるのか
な？）最後の18番ここまで回ると、
もう疲れがかなりきている筈、ところ
が最後のドラコン賞がかかったコー
スという事で、皆さん最後の力を一つ
の小さなボールにぶつけて行きます。
飛んだ飛んだぶっ飛んだ！
いやあゴルフ・イン・ハンガリー楽し
いです。皆さんも是非参加して下さい。

ソフトボール大会報告

去る5月18日に2008年度春季ソフトボール大会が開催されました。私自身3回目の参加ですが、今回は前年度優勝チームから大会実行委員を選出ということで、大会実行委員と選手を兼ねての参加となりました。

前日は、こんな日に雨なんて降らないよ：と 高をくくっていたのですが、家をでるときの空は天気予報どおりの曇り空で、会場に向かう途中、車のウインドウガラスに一時はポツポツと雨が：。しかし、グラウンドでのライン引き作業を終え、参加者の皆様が来る頃には、曇の切れ間からは太陽がのぞくほどのお天気になり、予定通り開始することができました。

大会のほうはと言えば、添付のトーナメント表のとおり、15チー

ムが参加し、例年通りいや例年以上？の熱戦が繰り広げられました。

今回の大会で特筆すべき点は、参加された皆さん口々にしていた今までにないホームランの多さです。ここで、ホームランラインについては、今までどおりの60m円弧としていきますので、選手の皆さんの打撃力の向上によるもの？また、よく耳にした言葉で、グラウンドが狭い：というのも前述のとおり今までと同じわけですから、各チームの事前練習が盛んに行われ、その場所のイメージが強く、これとのギャップからくるものではないでしょうか：。

大会結果は、左記の通りであり、AGC ハンガリーと武蔵ペイントの合同チーム「AGC武蔵さん」の優勝で幕を閉じました。

優勝 AGC武蔵さん

準優勝 アルパインB

第三位 デンソーA

最多ホームラン賞 森本康正

(AGCハンガリー)

今大会は大きなケガもなく、また閉会式、帰途に着く皆様の表情には充実した一日であったことがうかがえました。用具の片づけが終わる頃には大会終了をまっていたといわんばかりの強風と雨：、私は余韻に浸るまもなく、祝勝会へ。。。

最後になりますが、皆様の大会へのご参加、運営、事前準備にご尽力された事務局はじめご支援くださった関係者の皆様に感謝申し上げます。



ハンガリー日本人会・ ブダペスト日本人学校共催運動会

一般参加者大募集

本年も9月14日(日)に運動会が開催される予定ですが、広く皆様の参加を募っています。

今年の運動会は日本人会及び日本人学校の「共催」で実施する予定です。実はこれまでも「共催」運動会でしたが、日本人学校としてはこの地に学校がある利点を生かし交流を深めることが大切であると考え、日本人会としてはそのお手伝いをする事で、更に「共催」の意味を深めることができると思っています。

その交流と言う意味で一般参加者を歓迎します。具体的には、日本人子女で日本人学校以外(補習校、インターナショナル校等)に通っている児童・生徒並びに日本人学校と交

流の深いヴィラーニョシュ校の日本語を学習している児童・生徒、更には幼児の皆様、そして日本人学校保護者以外の大人の方々に多数参加頂きたいと願っています。

当日のプログラムには、幼児の皆様用の種目もいくつか用意されており、また一般大人の皆様用にもリレーやパン食い競争等が予定されているようです。一般参加の児童・生徒には当日赤白に分かれてもらい、得点源となってもらうつもりです。これは本人達の参加意識を高めるとともに、日本人学校児童・生徒と一体となつて、充実感や達成感を持って貰いたいと考えているからです。

日本人会としては、一般参加頂けそうな方々に声を掛けたり広く宣伝をしたりして一人でも多くの一般参加者に来て頂きたいと考えています。又、当日は一般参加者の受付や誘導等のお手伝いもしたいと考えていま

す。本番では色々とはプニングがあるって台本通りに行かないことがあるかも知れませんが、どうか心の交流を求めて足をお運びください。

日本人会と致しましても、是非とも「共催」運動会を成功させ、その他魅力のある行事やイベントを企画・実施して行きたいと思っておりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

日本人学校以外からの参加申し込み、運動会に関するお問合せについては、どうかご遠慮なく日本人会事務局へご連絡ください。

日本人会事務局 : 住所 1054

Budapest V. Zoltán u.13 I/1

電話 (06-1)

373-0400

Eメール

nihonjinkai@nihonjinkai.hu

目次

運動部情報

ランニング部

リレー大会に大活躍

兼子 秀昭

2

参加者の一言（向井初美・西城淳子・江森雅美）

2

フローラ女子・K&Hリレーに参加して

3

ハーフマラソンリレーに参加して

山内 淳子

6

マラソンリレー初参加

保坂 昌宏

9

釣り部

Nさんの執念

関本 正

10

テニス部

アマチュア・テニス試合初出場

横地 伸介

14

ペアマッチテニス大会

石川 正和

16

日曜午前テニスのお知らせ

的場 英門

17

ゴルフ部

パンノニアゴルフコース

山田 進

19

日本人会からのお知らせ

ソフトボール大会報告

日本人会・日本人学校共催運動会のお知らせ

22 21

運動部情報

ランニング部

在留邦人のランニング人口が増えていきます。今年最初のレースである4月のT-COMには3名、5月のフローラ女子のリレー種目に日本人学校から6チーム、6月のK&Hマラソン・ハーフマラソンリレー大会のエキジビジョン・ミニマラソンリレーに日本人学校から12チーム、フルマラソンリレーには男子2チーム、ハーフマラソンリレー女子1チームが参加しました。

とくに、ミニマラソンリレーでは男女174チームのうち、日本人学校チームが7%も占め、レースアナウンサーが何度も「ヤパーン・インユコラ」を叫び、日本人学校の活躍が目立っていました。この活躍もあって、参加者全員にサッカーボールが贈られるという思いがけないプレ

ゼントがありました。

メインイベントのハーフマラソンリレーには207チーム、マラソンリレーには586チームが参加し、今年のK&H大会は800名近いランナーが一斉にスタートするというハンガリーで最大のリレー大会になりました。

例年、ハンガリーと日本の速いランナーを集める「日本ーハンガリー友好チームA」は、体調不良者と走者の都合がつかず、ここ3年維持してきた10番台を維持することができず、惨敗しました。大使館チームは第一走者がリタイアしたにもかかわらず、レース続行が認められ、全員が完走しました。ここがハンガリーの大会らしいです。女子のハーフマラソンでは山内さんのチームが、1時間51分41秒で、47チーム中15位と健闘しました。

9月には国際ハーフマラソン大会、国際マラソン大会が開催され、在留

邦人も多数参加の予定です。レース前日まで申し込み可能です。リレーで走ることもできます。



K & H ミニマラソンリレー参加者の集合写真

リレー大会に大活躍

兼子 秀昭

昨年に引き続き、日本人学校では多くの児童生徒がこの春のリレーマラソンに参加をさせてもらいました。5月のフローラ女子リレー大会（1・5キロ x 3）には総勢25名の本校関係者、6月のK&Hリレー（2・1キロ x 3）には36名の本校関係者、合わせればなんと60名以上の参加がありました。その中には昨年までには見られなかった傾向も現れ出しました。

昨年までは児童生徒のみの参加で、保護者は付き添いや応援でしたが、今年度は保護者チームや教師チームの参加も見られたのです。本校でのマラソン熱の高まりを示すものではないでしょうか。

練習でも、その高まりは現れました。どちらのマラソン大会に向けても昼休みを中心にして、練習を積ん

だわけですが、ある日小学部の低学年の児童が「先生今日も走りたいなあ」と言いました。その日は大変暑い日で、走らせるのに無理があるかと判断したのですが、子どもたちの身体は、もう走りたくてうずうずしていたのですね。児童生徒の感想を見ても、継続して取り組んできた成果が現れました。昨年の記録を意識して大会に臨む生徒もいたのです。

「継続は力なり」とはよく言われますが、マラソンについては練習のみに使われるような言葉です。しかしながら、継続して取り組むことでさまざまなところに波及効果があることがわかりました。これも「継続は力なり」の現れでしょう。さて、今後はどんな「継続は力なり」が現れるのか楽しみでもあります。

最後になりますが、毎回日本人学校のために、申し込みや当日の受付を行っていただいている盛田部長に学校より感謝申し上げます。日本

人学校の「マラソン熱」を支えてくださっている大きな力です。

久しぶりのマラソンを走り終えて

向井 初美

まさかここブダペストで、マラソン大会に出場することになるとは。数ヶ月前には夢にも思わず、1・5キロなら何とかゴールまでたどり着くことができるかとも思い、お友達のお母さんと思い切って3人でリレーに出場することになりました。久しぶりに握るバトン・沿道の応援・賑やかなマラソン大会の放送、すべてが新鮮で苦しいけど楽しいあつという間の1・5キロでした。次回も機会があればまた挑戦したいです。



マラソンが私に与えたもの

西城 敦子

このマラソン大会が、私にとって大きな意味を持つなんて思いもありませんでした。

今まで子育てをしているということを書いて、何事に対して、何事に対してもチャレンジするということを、ためらってきました。そんな私がこの大会に参加することは、とても勇気のいる決断でした。しかし走り出してみれば周りの方の応援にもかかわらず、前だけを見て一歩一歩進んでいる私がいきました。チームでがんばったという連帯感と走り終えた安堵感で、心地よい疲れが残りました。

私は少し自信を持つことができませんでした。そして今後いろいろなことに挑戦していききたいという欲ま

で出てきました。

与えてくださった方々に感謝しています。ありがとうございます。

また参加したい

江森 雅美

私は1, 5キロのリレーマラソンに参加しました。マラソンは何十年かぶりでもとても緊張しましたが、会場が和やかな雰囲気でした。走ることができました。前走者からバトンを受け走り出すと、皆からの声援。一緒になった走者とは「頑張ってる」と声を掛け合う。ゴールでは温かい拍手、チームメイトの「お疲れ様」の言葉。嬉しさが込み上げ、参加したことを心から「良かった」と思いました。いっしょに走った娘も同じような思いを持ってくれたと思っています。また機会があればぜひ参加したいと思っています。

フローラ女子リレーに参加して

小学部5年 園田 朱音

私がマラソン大会に出たのは、友達から「いっしょに走ってみる？」とさそわれたからです。それから外で何日か練習しましたが、すぐにつかれてしまい、本番が心配でした。そして当日、走る前は全くきんちようせず、「さん、にい、いち」の合図でいっせいにスタートしました。走っているときはなぜか楽しかった。スピードをあげてみました。するとゴールが早く感じました。みんなまで走ったせいかな、とても楽しく走れました。

小学部6年 浅野 柊

マラソンの日、私は初めて1・5kmを走るのでとてもきんちようしていました。そして始まったそのとたん、泣き出したくなりました。それくらいきんちようしていたの

です。最後終わったときには1・5 kmが走れたことだけで感動してしまったほどです。マラソンに出てよかったことが二つあります。一つ目は体力がついて自信がついたことです。二つ目は目標が達成できたことです。また、走れる機会があれば挑戦したいです。

中学部1年 古賀 絢子

私は初めてこのマラソンに出た。走っているときはすごく集中していた。頭の中は、前に進むことしか考えていなかった。

そしてバトンを渡したとき力が抜けた。喜びと達成感を実感したのと同時に、走ることって楽しいなっと思った。秋の3・5 kmのマラソン大会も出場しようと思っている。また、走ることが楽しいと思えるといいなあ。

中学部2年 渡邊 菜月

心臓がばくばくいつてる。私は休まず、体操をした。まるで壊れたロボットみたい。それくらい緊張していた。

最初はマラソン大会に強い意識を持っていなかった。だが、毎日の練習で日に日に緊張感が高まっていた。休日の直射日光の中、ハーハー言う犬のようになりながら走ったこともあった。早く走れることを願いながら。

そして、「ハーロム、ケットウ、エッジ、パーン」。今、鉛のついた重い足を大きく前に出した。プレッシャーという鉛のついた足を。



K&Hマラソンリレーに参加して

小学部5年 明原 摩奈

「がんばれー」私はその声に背中を押され、いつもより足早にスタートを快調にきつた。しかし、1キロメートル手前くらいからだんだん足が重くなっていた。5分10分とどんどん時間が過ぎていく。2キロ地点を越えたときたくさんの応援の声が聞こえた。

私は最後の力をふりしぼり、全力でゴールまで走った。そのとき何人かは追い抜けた。タイムも順位もよかったわけではないが、完走できたことに満足だった。

小学部5年 兼子 美樹

私は、お母さんと妹とチームを組んで大会に出ました。最初は家族と走るなんて・・・と思ったけれど、やってみるとこれもハンガリーで

のいい思い出になりました。

ドナウ川やブダの王宮、国会議事堂などのきれいな景色を見ながら走るのは、とても気持ちよかったです。みんなからの応援の声も私をがんばる気にさせてくれました。これを機会にまた、ほかの大会にも挑戦してみたいと思います。

小学部 6年 小林 亜海

私はマラソンに出るのは3回目でした。1、2回目も参加したのは女子マラソンリレーで1・5 kmでした。学校の授業では2 kmしか走ったことがなかったし、1・5 kmのマラソンしか出たことがなかったので不安でした。しかも第一走者だったので、よけいに緊張しました。走っているときはとても楽しかったです。とても心に残りました。来年も出ることができたら参加したいです。

小学部 6年 鏡 浩太郎

ぼくはマラソン大会に初めて出た。第一走者だったので緊張した。スタート地点に立ったとき、「よし、10分以内で走ってやる」と心に固く決心した。「パーン」という音とともに走り出した。途中疲れて歩きそうになった。でもみんな一生懸命走っているの、負けてはいられないと思います。あきらめずに走り続けた。残り70メートルのところでは全力疾走した。目標は達成できなかったけれど、自己ベストだったので、よかった。また走りたい。

中学部 2年 木村 健

ぼくは半分は思い出作りのために参加しました。大会当日、ぼくは起きたときから緊張していました。この緊張は走る直前まで続いています。でも、走り始めたなら何も考えることなく完走することができました。おかげでほぼ全力を出すこ

とができ、帰国前のよい思い出となりました。ただ悔いの残ったことは、もっともっと全力で走れば記録が伸ばせたかなともうことです。

中学部 2年 橋本直樹

春の風が過ぎ、夏の風が吹こうとしている今、ぼくは再びこの戦いの場に戻ってきました。昨年の成績を超えるため、小さな努力をしてきました。

昨年は走路を間違える失敗をし、チームの仲間に迷惑をかけました。あげくに順位も下がってしまいました。しかし今年はチームのみんなも少しずつ努力をしてきたため、一人が8分程度で走ることができました。以上の成績となることができました。リレーマラソンで学んだことは「努力の後には喜びが待っている」ということ。これを信じて、来年も同じメンバーで再び挑戦したいと思います。またあの戦いの場で。

ハーフ・マラソンリレーに参加して

山内 淳子

6月8日のK&Hマラソンリレー。この大会は私にとって4月の「T・COMヴィヴィチッタ」、5月の「フローラ女子」に続き、ハンガリーに来てから3回目のレース。今回はハーフマラソンリレーということ、前回までの個人ロードレースとは異なり、3人でチームを組んで、1人7kmを走ります。

個人レースは自分との戦いですが、リレーとなると自分だけではなくチームの連帯感、そしてバトンを次の走者に少しでも早く確実に渡すという少し緊張感が生じます。この心地よい気持ちを味わいたいと思い、出場することを決めました。そして、小学二年生になる娘にもそのような気持ちを小さいうちから培ってほしいと思い、クラスメイトを誘ってミニマラソンリレーにも参加すること

にしました。

マラソン大会の2週間前にチームのメンバーと、ミニマラソンの2・1キロの国会議事堂周辺のコースを下見に行きました。観光シーズンを迎えたブダペストでは絢爛豪華な国会議事堂の見学ツアー客の人の並み。「あゝここを走るんだ」。ハンガリーへの転居が決まったときにガイドブックで初めて見たあの美しい国会議事堂の前を走ることができるとかと思うととても不思議な感じがしました。私は、国会議事堂、ドナウ河、そして2番トラムが走る3拍子そろった風景が最もハンガリーで好きなので、この大会を何よりも楽しみにしていました。

前日から天気が荒れ模様となり心配しながら床についたところ、未明に屋根にあたる大粒の雨の音で目を覚ましました。「早く止んで」と祈りながら目をつぶりましたが、心配でその後は熟睡できませんでした。朝

になりなんとか止んでくれた雨。8時45分に集合場所に向かったら、既に日本人学校の生徒、先生方が集まっており、準備体操が始まりましたが、その頃からまた雨が降ってきました。「みんな一生懸命に走れば、お天気も回復してくれます」との校長先生のお話どおり、9時半のスタート時点では雨も止み、会場は熱気を帯びたお祭り騒ぎのような楽しい雰囲気になってきました。日本ではマラソン大会に参加したことはありませんが、この雰囲気とはだいぶ違うのではないのでしょうか。ハンガリーならではの盛り上がり方なのか、ヨーロッパではどの国もそうなのか分かりませんが、とにかく楽しい雰囲気です。

スタート合図とともに第一走者が飛び出しました。私は第二走者だったので第一走者が戻ってくるのを待ちました。日本人学校関係者が戻ってくる度に「ヤパニイシュコラ」と

放送が入り、とても嬉しく誇らしく思えました。チームの第一走者が速いペースで戻ってきました。私は大事なバトンを受け取った後、雰囲気にな飲まれマラソンなのに思わずダッシュしてしまいました。が、気を取り直し、すぐにマイペースに戻しました。

その後、しばらくドナウ河沿いの観光船などを見ながら、また沿道の声援を聞きながら気持ちよく走りました。そのうちあの国会議事堂が見えてきて、「本当にここで走っているんだ」と実感し、またまた嬉しくなりました。ゴール近くになり、前の人を抜かせそうで抜けない自分に年齢を感じながら、最後は苦笑しながらも第三走者に無事にバトンを渡すことができました。その後、日本人学校の他の出場者を応援し、低学年もみんな無事に走り終えたことを確認してから、主催者側が配っているノンアルコールビール、そして保護

者の方が持ってこられたビールをほんの少しいただきました。とってもおいしかったです（でも本当はもつと飲みたかった）。マラソンは走っている間は苦しいときもありますが、走り終わったときの爽快感がたまりません。今回一緒に走ったメンバーで後日、打ち上げをするのが楽しみです。で走ったところも多分にあります。

実はこれで終わりではありません。11時スタートのハーフマラソンリレーにも出場することになっていたため、走り終わった後の余韻にひたる間もなく、日本人会の事務所に向かいました。そこで一緒にチームを組むハンガリーの女性と初めて会い握手をしました。彼女は第一走者と第二走者を兼ねて走るためゼッケンを2枚重ねて付けていました。私はそのとき、彼女が14キロを走るのを知りびっくりしました。彼女から第三走者としてバトンを受け取り、果たして最後まで無事に走れるのか

と。しかし彼女のスタートまでもう時間がありません。私は彼女の顔と髪型、そしてランニングウェアを覚えたものの、急に髪の毛を結びだしたため、慌てて髪型を覚えなおしました。

この大会には当初ミニマラソンだけ走る予定でしたが、5月の「フロラ女子」の際、初めてランニング部長の盛田さんとお会いして、「ハーフマラソンリレーでハンガリー人と日本人の混合チームを作ります。1人足りないので走ってください」と言われて決めたものです。迷いましたが、「ハンガリーの人とチームを組むことはここにいないか絶対できないし、大げさに言えばハンガリーと日本の架け橋にもなれる」と思い、残された3週間で練習することを決めました。しかし、練習嫌いな私は週に1回程度、短い距離を練習しましたが、7キロ練習はのびのびにしていました。大会の3日前になり、

さすがこれではまずいと思い、マルギット島に走りに行きました。それでも、本番は2・1キロのミニマラソンリレーを走った後に、さらに7キロなのでとても不安なまま、当日を迎えました。

日本人会事務所に張られたグループごとの走者リストには、第一走者と第二走者を兼ねたジュジャが12時10分〜15分の間に到着と記してありました。14キロも走るのに到着時間が予測できるなんてすごいと思っていたら、本当に12時13分に戻ってきました。しかし、その時の彼女は私が覚えていた顔でもラニングウェアでもありませんでした。色白の彼女の顔は紅潮しウェアは汗で色が変わり、「えっ本当？」と心の中で叫びながら、ゼッケンナンバーを確認しバトン(架け橋)を受け取りました。バトンは彼女のがんばりを物語っておりかなり湿っていました。さっきまで全く知らなかった

彼女と何か一体感を覚える不思議な感覚を味わいながら走り始めました。コースも知らずに走り出したのですが、マルギット橋を越え、アールパード橋近くで折り返し、国会議事堂の後ろを通り抜け、鎖橋を過ぎたところまで走り、そこで折り返して国会議事堂まで戻るコースでした。朝の天気とは全く違い、燦燦と太陽の光が降り注ぐ中走り続けましたが、彼女が力をくれたのか、沿道の声援のお陰か思ったほど苦しくなく走ることができました。しかし、マラソンリレーに出場している人は日頃からしっかり練習しているのでしょうか。走り方もしっかしっかしているし、速いのでいっぱい抜かされました。彼女が貯金してくれた分をだいぶ使っちゃってごめんねと思いながら走り終えました。ゴールタイムは1時間51分でした。それでも自分の予想していたタイムよりは速めにゴールできたので、結果オーライかなと自分

に甘く評価してみました。走り終わったあと、今度は思いきりノンアルコールビールを楽しみました。

この大会ではミニマラソンリレーに150組が、マラソンとハーフマラソンリレーに1000組程度が出場したそうです。そして大会のホームページには、全出場者の名前とチームのタイム、写真そして動画まで掲載されており、ブダペストのマラソンに対する関心の高さ、そしてマラソンを愛する気持ちが十分に表れた大会だったと思います。

異国の地でこのようなすばらしい体験をさせていただき本当にありがたく感謝の気持ちでいっぱいです。今後、国会議事堂をみる度にこの大会のことを思い出すことでしょう。もし、今、マラソン大会に出場しようか迷っている方がいらっしゃいましたら思い切ってこのすばらしい体験を味わってみてください。絶対に後悔はしないと思います。

マラソンリレー初参加

大使館チーム 保坂 昌宏

6月8日(日)午前11時、司会者とランナーと一緒にスタートのカウントダウンをするという、少し不思議な盛り上がりの中、レースはスタートしました。

そもそも、6人で42・195キロ走るというやや無謀なレースへの参加を決めたのは、レースの2週間前で、完全に思いつき。そんな無計画で無謀な思いつきは、5名のボランティア精神溢れるメンバーの協力により実現することとなったのです。メンバーは私も含め7キロもの長距離など、高校卒業以来走ったことはないのではという、ごくごく平凡な30代から40代の男性陣。しかもほとんど練習せず、ぶっつけ本番で当日を迎えてしまいました。

我がチーム第1走者は、メンバー中最高齢ながら、ジムに通い鍛錬を

怠らない、期待のN氏。他走者にひけをとらない果敢なスタートダッシュを見せ、みるみるうちに遠ざかっていきました。いい感じかも。

しかし、事件は突然やってきました。「N氏が倒れて救急車で運ばれた」との連絡。この一報を受け、もうレースどころではなくなりました。

ひたすらN氏の無事を祈る一同。すると、N氏とハンガリー人負傷者1名を載せた救急車が中継地点の救護センターにやってきました。固唾を呑んで見守る中、N氏は自力で救急車から降りてきました。不幸中の幸いで、N氏は意識を失ったわけではなく、足が動かなくなっていました。ただこのこと。水分を充分取り、休養して事なきを得ました。ほっ。

レースの方ですが、これでリタイアというわけではなく、N氏が最後の力を振り絞り救急車でバトンを中継地点に運んできたおかげで、レースは続行できるとのこと。その後は、

第2走者から第6走者までなんとかバトンをつなぎゴールしました。別にチームで一生懸命練習したわけではなく、特段強い団結力があつたわけでもないのですが、アンカーがゴールした瞬間は、みんなで何かを成し遂げた感があり、感動しました。

さて、気になる記録は3時間54分54秒、順位は536チーム中413位！結果は自慢できるものではありません。でも、大会後、リベンジに燃えジムでの鍛錬に励む人、運動不足に気づいてランニングを始めた人がいるらしく、将来につながるレースであったと勝手に前向きに総括しています。

最後になりますが、休日にもかかわらず応援に駆けつけてくれた同僚、奥様方に心よりお礼申し上げます。



釣り部

Nさんの執念（オーストリア・

グムンデンのトラウン川）

関本 正

釣り部立ち上げの時の二人のメンバーの一人Nさんがハンガリーを去る事になりました。

帰国前に欧州の釣りを堪能しないと成仏出来ないNさんの事を思い今年は早春より何回か釣りに出かけました。氷の張ったそれは寒いエトラッハ湖(Etrachsee:爆釣の湖)にも行ったのですが、過去何度も書いてますので割愛し、この度は世界的に有名なグムンデンのトラウン川(Gmundner Traun)の報告をさせて頂きます。

このトラウン川は風光明媚なザルツカンマーグート(Salzkammergut)にある幾つかの湖の一つトラウン湖より流れ出す世界的に有名な鱒川で

す。19世紀末より英国、ドイツ、オーストリアの王室・皇室のメンバーが大物釣りに訪れ、ホテル・リッツの二代目御曹司シャルル・リッツが毎年夏の休暇を釣り三昧で過ごし、リッツの友人アーネスト・ヘミングウェイ、後の米国大統領になるアイゼンハワー将軍も釣りに訪れた川です。兩岸は深い緑に覆われた斜面が続き、昔は鮭と間違う程大きな鱒と大型グレーリングで有名で、往年の輝きはないものの、今も大物鱒が上がる川です。

それまでは何となく敷居が高く行った事がなかったので4月中旬思い切って早かったので4月中旬思い切って行く事にしました。Nさんと谷川(名人)と一緒にです。

宿は Hotel Marienbruecke というリッツの定宿だった釣り宿です。途中迷いながらもブダペスト出発から5時間程で宿に到着、チェックイン、釣り券購入を済ませます。ホテルには釣り人が集まり庭では10人くらい集

めてキャスティングの指導をやつてます。指導しているのはスイスの有名な釣り師 Hebeisen 氏、日本でいったら、昔は IIPM 釣りコーナーの服部名人、最近では岩井溪一郎(知っている人はいないでしょうね。。。)という感じの、兎に角その道の御大です。

地元の釣り人っぽいオジサンにポイントを聞くと、「オメエなあ、深場によろ、シンキングラインでストリーマーをぶち込まなきゃ、ダメだべえ！オメエら、そなたがちゃっちゃい道具で何しようつうーの(オーストリアの田舎は訛りが強いのです)」とのご託宣です。春の川は冷たく増水しているので、魚は深場でじっとして、目の前を小魚が通る時だけ食いつくのです。

我々はお上品にドライフライ、ニンフという羽虫のイミテーション毛鉤といういつもの道具立てでした。先が思いやられます。とりあえず川には下りたのですが、水が多く流れが急です。それに水はまだ冷たいニウエーダー

越しに水の冷たさが身にしみます。

初日は結局三人ともボーズ、二日目に執念のNさんがフライとは思えない小魚ルアーもどきを岸ぎりぎりにしつつこく流し込み、40センチくらいのブラウントラウトを釣り上げました。谷川(名人)と私は二日やってボーズという最低のシーズンスタートでした。

二回目の釣行は気温も上がり、虫も出てきただろうと思われる5月の末で、Nさん、Wさんと一緒に釣行でした。羽虫の情報も仕入れ、夜なべ仕事でそれにふさわしい毛鉤も巻き準備万端です。

ホテルに荷物を降ろし釣り券を購入、川に向かいます。初回に行った事のある釣り場に行き川を見ると「水がやけに多いねえ」。雪解け水の流入で前回早春の時よりも水が多いのでした。川にはあまり入れないので岸際でパチャパチャ釣りするしかないのです。魚は時々跳ねるのですが、それも

川のご真ん中でとても我々の毛鉤は届きません。フラストレーションに身を焦がします。暫くしてNさんが一匹釣り上げます。岸際ぎりぎりに流して釣ったそうですが、蛭が一杯ついたブラウン・トラウトでちよつと触る気にならない魚でした。その後釣り場を変えたりしたのですが状況は思わしくなく、初日はまたまた不満足な結果でした。

二日目、後ろが開けてフライキャステイングがしやすい釣り場を選んで入溪しました。そこは浅場なのですが、なんと魚がうじゃうじゃいます。60センチ以上も何匹かいます。Nさんはすっかり興奮、我先に竿を出します。朝9時くらいから釣り始め毛鉤をこれでもかと流すのですが一匹も咬えません。何か餌を食べているのは間違いないのですが。。。川に立ち込んで数時間、魚が結構近くにいたので足元をふと見るとウェーダーの表面に何か白いものが沢山ついていきます。それは

無数のちいさな白い糸ミミズ、つまりユスリカが朝から大量に羽化していたのでした。道理で我々の毛鉤ではない筈です。

ユスリカのような極小の虫に合わせた毛鉤は持つてませんし、そもそもそんな毛鉤では釣りになりません。そこでそれまでの一本針仕掛けに枝針をつけ全部で3つのウェットフライ(沈毛鉤)のチームにし、特にユスリカが出る時に効果ありと言われるSilver March Brownを一番先の毛鉤とし、他はシルバーボディーでキラキラ光る毛鉤をつけました。

三つの毛鉤を川の流れに合わせ下流に自然に送り込み、魚がもぞもぞ動いている所の手前でストップさせ、毛鉤に動きを与えます。数回それで試してみると手元にコッソンと当たり!!間髪入れず合います。ヤッタ、かったです。念のため再度合わせをくれます。と、魚は動きだしました。強い流

れの中で上流、下流に泳ぎまわり、その度リールから糸を10ヤード、20ヤードと引き出します。丁度その日は8フィート5インチの短めの竹竿を使っていたので竿は満月、何時糸が切れるか針が外れるか気が気でありません。でも、竹竿の良いところは粘り

強さ、衝撃を竹の穂先がうまく吸収し細い糸もなんとかもっています。ようやく魚が疲れて寄ってきたので見ると銀色の虹鱒です。しかもデカイ。虹鱒君は人間の姿が見えたので力を振り絞り遁走します。激流の中ですから大変な捕り物です。NさんとWさんの二人のギャラリーの前なので部長の貫禄は守らねばと無理をせず時間を掛けて取り込む事とします。15分、いや、それ以上？、どれだけやり取りしたでしょうか。力を振り絞った虹鱒はNさんが差し出した玉網によく納まりました。47センチの別嬪さんでした。

別嬪さんを見たNさん、Wさんは興

奮しその後毛鉤を何度も流したのですが、我々が釣りをしているとこにビキニのお嬢さんが日向ぼっこに來るといった邪魔も入り、後が続かず、部長の一人勝ちでその釣行を終えたのでした。

帰国を翌週に控えたNさんは部長の一人勝ちのシーンを見せられて成仏出来ず、釣り部主催の彼の送別会の席で、「関本さん、やっぱりトラウン川にもう一回行けないですかねえ？」「でもNさんは土曜日送別会が入ってるから一泊出来ないですよね？」「そうですね。。。」「でも片道5時間だから頑張れば日帰り出来るかな？」「それ、それ、朝早いのはぜんぜん大丈夫だからそれで行きましょう！」という話になってしまい、6月15日、日曜朝3時出発の日帰り釣行が決まったのでした。

眠い目をこすり時間通りNさん宅を出発、途中運転を交代しながらトラウン川へ向かいます。宿には事前連絡

してあったので釣り券を即購入、8時過ぎには川に到着しました。場所は早春にNさんが唯一の一匹を釣り上げた場所の近くです。

到着と同時にNさんはあつという間に身支度し川におりました。ダウン・クロスで下流にウェットフライを流し込む釣り方です。こちらはまだ眠気でボーっと身支度しているのに川ではNさんの歓声が聞こえます。「かった！！」。Nさんの竿は日本の溪流用の華奢な竿で根元からぐんぐん大きく曲がっています。最初の一匹は41センチのブラウン・トラウトでした。私がようやく川に入った頃には、Nさんもう数匹釣り上げてました。過去2回の不調を払拭する絶好調な滑り出しです。

午前中、魚は活発に餌を追ってました。私は前回で味をしめた毛鉤3本チームを上流に向けてキャストし自然に流します。当たりを竿で取るのは難しいのですが、魚の動き、糸の不自然

な動きを目印に合わせます。Nさん程ではないですが、私にも40センチを筆頭に数匹釣れました。

相変わらず絶好調のNさんに様子を聞くと、「いや針を伸ばされて逃げられました」、「この竿じゃ全く寄せられない大物で糸を切られました」とかとても景気が良い話ばかりです。こちらはお昼近くで魚の動きが鈍くだんだん釣りにならなくなったのでちょっと場所を変えて下流に行きました。

下流で一時間以上やったのですが魚が出ず、もう2時になったので再び前の場所に戻ります。ちよっとやって時計の針は2時30分。その晩フェリヘジ空港に客の出迎えがある私を慮ってNさんは2時45分で上がりましょうと言ってくれました。残り15分、エキストラ・タイムです。最後の一投は朝最初にやったポイントで上流に向かって投げました。

上流から流れてきて丁度私の真横の方向に毛鉤が来たとき、水面下でギ

ラリと魚が光りました。とっさに合わせた瞬間、魚は大きくジャンプします。綺麗な虹鱒です。こいつは糸を引き出し、ジャンプを繰り返し、こちらは何時針が外れるかドキドキです。時間もないので力勝負。玉網に納めたのは案外小さな39センチの虹鱒でした。

その虹鱒を網に納めた直後、Nさんが「かかった」と叫びます。華奢な竿はまた満月にしなり、かかった魚は流れの中を右に左に泳ぎまわります。大暴れです。Nさんのフライトを写真数枚に収め見る事数分、Nさんは見事に欧州最後のブラウン・トラウトを仕留めたのでした。

エキストラ・タイムでのワン・ツー・フィニッシュ、世界的に有名なトラウン川でNさんのまさに絵に描いたような釣りのフィナーレでした。

これまで2年程、駄文にお付き合いました。在を終え帰国する事となりました。この文が皆様のお手元に届く頃は日本

にいるものと思います。中東欧の釣りの思い出、そこから知り合った人達とのお付き合いを得た事は、私の人生の宝物です。

釣り部の後任部長には、何故か「名人」の称号を持つ、谷川さんに就任頂く事となりました。皆様のご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

皆様 初めまして。

この度、御帰任される 関本さんの後を継ぎ、釣り部部長をさせて頂く事に成りました谷川浩明と申します。

部長と申しましたが、「ただ釣り暦がある」というだけで部長になったようなもので、

イカシすぎ！

・ ・ ・ 関本部長の後任は、正直私で務まるのか非常に不安です。

日本人会 並びに 釣り部の皆様には、ご迷惑をお掛けすることが多々あると思います。その際は、どうかご指導、ご協力をお願い致します。

テニス部

アマチュア・テニス試合初出場

横地 伸介

ハンガリーのアマチュア・テニス大会に行ってきました。会社の若手ハンガリー人の部下と2人で初出場です。

場所はバラトン湖の北にあるバラトンフレドという町。6月7日（土）6月8日（日）の2日間にわたって行われました。試合はシングルスとダブルスの両方に出場しました。

ブダペストは前日からの大雨で試合は無理かとも思いましたが、バラトン湖だし天気もブダペストとは違うだろうからと、とにかく出発。ブダペストから車で1時間半で試合のあるテニスクラブに到着。朝は曇りでしたがテニスは出来るコンディション。

午前9時から会社の若いのとウーミングアップ。ここはコートが4面あるので隣のコートなどで他の選手もすでに練習を始めていました。私もテニスはまだまだで人のことをコメントできる立場ではないですが、他の出場するハンガリーの練習を見ていると「なんか滅茶苦茶な打ち方しているな」。これならひよ

つとして勝てるかも？」などと淡い期待を持ち始めました。これが後に覆されることになります。

10時までに出場選手が集まり対戦表が出来上がりました。シングルスの出場選手は15人。地元近辺の人達が集まった感じの小さな大会です。

ハンガリーのアマチュアの大会はAカテゴリーとBカテゴリーがあります。ハンガリー又は海外の公式ランキングの100位外の人なら誰でもアマチュアの試合に参加できます。もちろん日本人も参加できます。

AとBの違いは、Aのカテゴリーの方がBよりも上手といったアバウトな区分けです。この大会では人数も少ないのでAとBを混ぜて試合をすることになりました。

私の第一試合はAカテゴリー。相手は39歳（私はちなみに41歳です）の気のよさそうな人、強い玉は打ってこないけどボールのコントロールが上手く、ちよつとでも遅くゆるい球を返すとすぐコートの端のほうにボールを返されます。だんだん相手のパターンが読めてきましたが、どうも体が思ったように動いてくれず、そのうち自分のリズムを崩し始めミスの連発で自滅パターンに陥り試合は9ゲーム先取制で結果は9、3で私の負け。勝てると思った相手でしたが圧倒的に私のミスが多すぎました。

30分くらい休んだ後に今度はBカテゴリーの相手との試合。今度は190センチ位ある体格のいい3

0歳位の相手、練習で打ち合いでも前回の相手と比べ物にならないほど球は速いしボールが重い！この人本当にBカテゴリー？と思いました、まあ1ゲームでも取れればいいかという気持ちで試合開始。こちらの相手はパワーがすごくてボールが早く、スピードに慣れるのに少し時間が必要ですが、それからはこちらの挽回。

初めの緊張感もなくなりリラックスし始めてきたせいか、相手の打ってくるコースが分かりやすくなってきました。それとこれは他のハンガリー人選手にも同じなのですが第二サーブが極端に遅い！1ゲームでも取れたらと思うけど「これは上手いけば勝てるかも？」またまた淡い期待。相手もミスが多くなり始めて6・4くらいまで追いつきました。

しかし今度は私のミスが出始めました。このところ不調のバックハ

ンド側にボールを返され始めて調子が狂い始めまたまた自滅パターン。結局9・5で負けました。やはり試合慣れというか場数を踏んでいかないとだめだな、と感じました。練習ではキチンと出来ることが試合で出来なくて自滅的なミスが多すぎでした。

試合後に日曜テニスの場さんが家族で見に来てくれて一緒にハンガリー人の試合を見ました「サーブ・アンド・ボレーならハンガリー人に勝てる」と短時間のうちに見抜いたのはさすがでした。

なぜならその後の試合結果で分かったことですがシングルスで3位の人が「サーブ・アンド・ボレー派」でした。やせ気味の50歳位の選手で20歳くらいの血気盛んな相手をひょうひょうと言った感じで負かしたり、また他の強豪選手を負かしているのを見てテニスの奥深さを感じました。

このあたりから太陽が出て天気

は真夏日のよう。お昼はテニスクラブのオーナーがグヤーシスープを外で作りみんなで昼食。ビールが本当に飲みたい気分でしたが午後はダブルスの試合があるので断念。でもダブルスは会社の若いハンガリー人と組んで全敗でしたのでこれなら飲んどけば良かったと、後悔先に立たず。

試合結果はダブルスもシングルスも40歳後半から50歳前半の人達が若いのを下して上位に入っていました。

負けてばかりでしたがいつもと違う人達とテニスが出来て楽しくすごしました。これからも草試合に出て今後はもっとシングルスを勉強していくつもりです。

この時期あちらこちらで草テニストーナメントがあるので興味のある方は参加しませんか。バラトン湖近くの町での試合も多いので家族と一緒に来て週末のバケーションも兼ねる事ができますよ。

ペアマッチテニス大会

石川 正和

今回は先日、開催されましたペアマッチテニス大会について報告します。参加者は日本人テニス部の土曜部と日曜部から志願者16人8ペア。場所はBSEテニスクラブ。形式は4ゲーム先取。2つの総当り予選リーグの後、決勝トーナメントと下位トーナメントで順位を争いました。ペア決めは土曜部と日曜部で混合となるよう、クジ決め。

さあ、いよいよ試合開始です！
第一試合、皆さんもいつもと違うコート、違う顔ぶれで緊張している様子。そして、雨上がりでコートが緩くなっており、イレギュラー続出。真横に撥ねるスライスサーブ？垂直に撥ねるスピンスリーブ？まるでアニメの「テニスの王子様」を見ているかのよう。しかしながら、そんな悪条件の中、安定したテニスをしてい

るのが、日曜午前で名コーチとして君臨しているM場氏と、土曜午後でロボの達人と恐れられているM尾氏ペア。順調に勝ち☆をさらっていくきます。そのペアに★を付けたのが、土曜午後同士ペア（例外）のO黒・T田ペア。お二人共フオアハンドが得意の似た者同士。今回の快調の原因はO黒氏のファーストサーブが絶好調だったとの事。

そんな熱戦を繰り広げている横で、豊D氏と小生のペア。勝てない・・・試合時間は他の試合と大差無いのであるが、毎回ゲームを離されて負けてしまう。時間がかかるのは小生の行動がダラダラしているからだろうか？まあ、じっくり考えてみれば、理解出来る。他のペアの強い、というよりずる賢いのだと。基本的にテニスには人がいない所に打てばポイントとなるスポーツ。その点に長けているのが、日曜午前のS木氏と土曜午後のN村氏。そして、多分、私

もその同類。

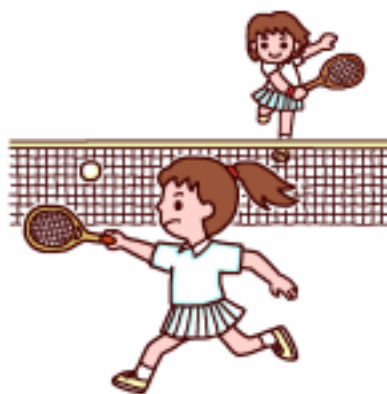
そして、大会は次のトーナメント戦へ。もちろん、我々のペアは下位トーナメントへ。

トーナメント初戦、相手は土曜午後のA木氏、日曜午後のI橋氏。A木氏はイケ面でテニスも巧く、性格も良い（が、テニスに顔は関係ない！）。I橋氏は策士、不意な球で照準を絞らせない。やはり、勝てない。

あれよ、あれよと負け続け、気づいたら最下位決定戦。相手は日曜午前のS木氏と、土曜午後のH本氏。お互い負け続けた同士、レベルも近い為、試合は大接戦に。と言うより、泥試合へ突入。気づけば2・2となっていた。第5ゲーム、サービスはH本氏。派手さは無いが（すみません）、落ち着いたテニス。ラリーが続く。そんな中、飛び出したS木氏のドロップボレー、足が動かない・動けない。しかし、このゲームは相手のミスが重なり、ラッキーにもゲット！

3・2となって、小生のサービスゲーム。なにやら、雲行きも妖しくなってきた。人は緊張すると、一時的に記憶喪失となるのだろうか？頭の中を過ぎる、「テニスって、どうやるんだったつけ？」ここから先は、あまり記憶ありませんが、何とか泥試合を制して、ブービー賞となりました。

決勝はM場・M尾ペア対O黒・T田ペア。試合開始し、サーブ絶好調のO黒氏がキープした瞬間、大雨が降り、そのまま試合不可能。優勝は、O黒・T田ペア、おめでとうございます。小生の組んで頂いた豊D氏、お疲れ様でした。また、今回ご紹介できなかった、個性豊かな部員の方々お疲れ様でした。いつもと違う顔ぶれでテニスが出来て楽しかったです。また、コート以外でも交流を深めていきましょう。



日曜午前テニスのお知らせ

的場 英門

日曜午前テニスはA M 9 : 00 ~ 11 : 00の2時間 **VAROSMAJOR**のコートを2面使用しワイワイガヤガヤと楽しくやっています。

現在、正式メンバーは男性14名、女性5名が所属しています（スポットで参加されている方もいらっしやいます）。

通常、ウォーミングアップの後、2面共に試合をしていたのですが、昨年末より1面は試合（経験者）コート、別の1面は練習（初心者）コートとして新たな活動を開始しました。

日曜午前チームは経験者から初心者までが気軽に参加出来るチームというのが売りなのですが、初心者であっても試合に参加して頂いていたのですが、「あまり楽しめていないのでは？」という思いがありました。そこでメンバーから「初心者向けの練習をしましょう！」意見があり、小生が球出しを担当させて頂き、現在に至ります。

練習開始当初はラケットの真ん中にボールが当たらない方や、ホームラン！連発の方など、皆さん中々苦労していました。小生もテニスを始めた頃、同じような事をやっていましたが、テニスのラケットは大きいようで真ん中に当たるといっ

本当に難しいんです。

お恥ずかしい話ですが、今でも真ん中に当たらない事がしばしばあったりします。。

練習開始から半年が過ぎ、初めから参加されている方は今では十分に経験者と一緒に試合が出来るレベルまで上達されており、中には経験者にも劣らないすぐ早いサーブを打たれたり、ストロークが安定されている方もいらつしやいます。日曜の練習以外に素振りや壁打ち、またはテニスのフォーム等を勉強されている方がいらつしやるようで皆さんの上達のスピードが非常に速くとても頼もしいです。

また、経験者の方もどんどん新しい経験者の方が参加されておりお互いに良い刺激を受けているようです。という小生も球出しをしながら「試合に参加したい！」と思う事があります。くらい熱い試合をされている事もあります（見ていても楽しい試合です）。

練習内容としては、15分〜30分のウォーミングアップ（2人ペアでストローク）を済ませ、フォア・バックの基本練習（1本打ち・2本打ち）、フォア&バックボレー、サーブ、最近はダブルスの試合形式を始めています。特にフォア・バックはテニスの基本中の基本ですので重点的にやっています。

テニスの練習方法や指導方法については色々な意見もあるかと思いますが、日曜午前テニスでは

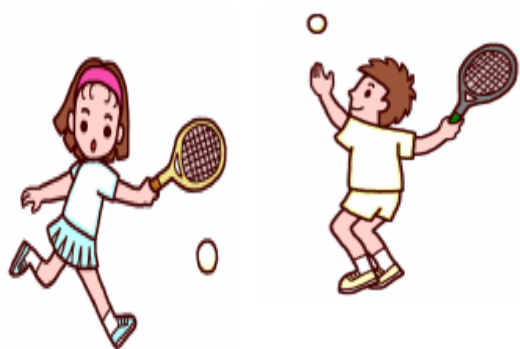
1. ラケットを早く引く
2. 体は開かず打つ（きちんと踏み込む）
3. アウトするならネットアウトではなくてバックアウト（当てるだけでなくて、ラケットを振る）

の3点を特に注意するようにしています。

テニスには色々な技術や考え方、作戦なんかがありますが、家族や友達とテニスを楽しむという部分では、

まずフォア&バックが出来るようになる事が大切で、その二つが無難にこなせるようになれば、誰でもいつでもテニスを楽しむ事が出来ると思っています。

最近は参加者が多い時があり上述の3点について中々全員を見る事が出来ないのが悩みどころでしたが、他の経験者の方が一緒になつて練習に参加してくれまますので非常に助かっています。



ゴルフ部

パンノニアゴルフコース

山田 進

いよいよハンガリーもゴルフシーズンの到来となりました。紺碧の空に白球を打ち込む爽快感と緑の絨毯に立つ開放感、何ともいえません。さて本誌をお借りしてパンノニアゴルフコースを紹介します。

まず1番ホール、左に池があります。初めは腰の回りも悪く大抵の人は右にボールが行きます。但しAさんは特別、最初から渾身の力で振りぬきます。まあこの人腕っ節もただものではない、何しろ飛ばす事に命をかけてます。続いて2番ホール、飛ばし屋だったら狙いたくなる1オン、Eさんもこのコースで絶対1オンを目指すと宣言してます、今年が楽しみです。手前には深いバンカーもあり、コース設計者の術中にはまったら大変です。

次は見晴らしの良い打ち降ろしの3番ショートホール、ここは風だけに注意すれば良いでしょう。4番ミドルは比較的パーオンし易い。グリーンは砲台です、左はバンカーの餌食に、右から攻めるといっても右は狭い。

5番は結構面白い左ドッグレッグの景色の良いロングホールです。セカンドショットで注意しないと左側の林に捕まる。周辺のラフも重たく、何人もがこの罠にはまっています。6番は定例のドラコンホール、飛ばし屋のSさん、このホールの常連です。非常に綺麗なフォームでシングルハンデです。ピンが手前にある時は厄介です。上につけると大変、パットをするとボールがグリーンからこぼれて、最悪は池の際のラフまで転げ落ちます。

さて7番は難易度の高い左ドッグレッグ上りのコース、左のラフへ入れない事、右には池もあります、打ち上げなのでグリーンは見えません。8番はニアピンショートコースで風の計

算が必要なホール、右手には池やバンカーが。実に旨く設計されています。そして長いロングホール9番と続きます。ここは2打目を刻むかどうか飛ばし屋さんなら考えます、無理して前方の池に入る人を見かけます。私は絶対刻むのですが、3打目で池に入れてしまいます。単に下手というやつです。そしていよいよインへ突入です。この間、ちよつとしたおやつを持参してお菓子、パン、バナナと口にはおぼつてスタートします。

10番は一見簡単なようですが、右がラフ、左にバンカーあり山あり、グリーン右側には池もあり、叩く時は叩いてしまうホールです。次の11番は非常にタフなショートホール、右前方にブッシュがあります。グリーン手前はバンカー群で、グリーン奥もバンカーがあります。グリーンの傾斜も気になる所、ボールが乗ったと思うと、ズルズルと落ちてしまうのです。Mさんなんかは地団駄踏んでました。こ

のMさん、お年のわりには青年達とた
めをはって飛ばしてます。

飛ばし方を訊ねたら、フオローの段
階で右足を左足まで引っ張るとか。飛
ばない人は試したら如何ですか。さら
にこのホールはグリーンが旨く読め
ません、ここは傾斜だけを見ても駄目
なホールであり、芝芽も十分注意して
下さい。

ここから12番へ移る時、心臓破り
の丘が待ってます。プルカートを引つ
ぱりながらはあはあ言いながら一歩
一歩進んで行きます。皆さん常にペッ
トボトルを用意しておくの忘れない
ように、特に夏には飲料を凍らせてお
くとこの頃丁度溶けていて喉越し最
高の飲み物となるのは間違いなし。

12番も高台のコース右下には1
6番を見ながら行きますので、右方向
は駄目、左は高圧線の鉄条網がありま
すので、注意して下さい。こちらにも
曲げては駄目、結局ゴルフは真っ直ぐ
打つ事です。真っ直ぐ打つことに長け

たOさん、距離こそ物足りなさそうで
すがフェアウェイキープ率は一番で
しょう。13番こちらはサービスホー
ルです。バーディを一日一個取りたい
人はこのホールが狙い目です。2駄目
は打ち下ろしで、兎に角グリーンを直
接狙わず手前から狙うと大体オンで
きます。続いての14番のロングホー
ル、ここはショートカットコース（1
5番に打ち込んで行く：通常はやりま
せん）もあります。フェアウェイが遠
いのでラフに捕まりやすい、コース途
中の凹凸やらバンカー、最後はグリー
ン左側の池に泣かされます。15番、
このコースは飛ばし屋さんがドライ
バーでナイスショットすると前方の
林の中にボールは消えます。時々ロス
トボールになるので注意。また左ドッ
グのコーナには棘棘のブッシュと木
で2打目を邪魔してます。コースマネ
ジメントが必要です。

また坂を上って、16番ロングホー
ルです。ここの特徴は右側に続くバン

カーの川です。ウエスタンバンカーと
呼ばれていて、バンカー内でもソール
をつけて打って良いそうです。（ルー
ル：バンカー内ではソールをつけて打
ってはいけない）。

17番これは名物ショートホールで
す。池に浮かんだ島如きに向かって打
ち込みます。池のプレッシャーからか
ボールが池に吸い込まれるケースが
多々あります。池の中には私が寄付し
たボールも山ほどある筈です。少なく
とも何百個のボールが池の底に眠っ
ている事でしよう。（掃除してるのか
な？）最後の18番ここまで回ると、
もう疲れがかなりきている筈、ところ
が最後のドラコン賞がかかったコー
スという事で、皆さん最後の力を一つ
の小さなボールにぶつけて行きます。
飛んだ飛んだぶっ飛んだ！
いやあゴルフ・イン・ハンガリー楽し
いです。皆さんも是非参加して下さい。

ソフトボール大会報告

去る5月18日に2008年度春季ソフトボール大会が開催されました。私自身3回目の参加ですが、今回は前年度優勝チームから大会実行委員を選出ということで、大会実行委員と選手を兼ねての参加となりました。

前日は、こんな日に雨なんて降らないよ…と高をくくっていたのですが、家をでるときの空は天気予報どおりの曇り空で、会場に向かう途中、車のウインドウガラスに一時はポツポツと雨が…。しかし、グラウンドでのライン引き作業を終え、参加者の皆様が来る頃には、曇の切れ間からは太陽がのぞくほどのお天気になり、予定通り開始することができました。

大会のほうはと言えば、添付のトーナメント表のとおり、15チー

ムが参加し、例年通りいや例年以上？の熱戦が繰り広げられました。

今回の大会で特筆すべき点は、参加された皆さん口々にしていた今までにないホームランの多さです。ここで、ホームランラインについては、今までどおりの60m円弧としていきますので、選手の皆さんの打撃力の向上によるもの？また、よく耳にした言葉で、グラウンドが狭い…というのも前述のとおり今までと同じわけですから、各チームの事前練習が盛んに行われ、その場所のイメージが強く、これとのギャップからくるものではないでしょうか。

大会結果は、左記の通りであり、AGC ハンガリーと武蔵ペイントの合同チーム「AGC 武蔵さん」の優勝で幕を閉じました。

優勝 AGC 武蔵さん

準優勝 アルパインB

第三位 デンソーA

最多ホームラン賞 森本康正

(AGC ハンガリー)

今大会は大きなケガもなく、また閉会式、帰途に着く皆様の表情には充実した一日であったことがうかがえました。用具の片づけが終わる頃には大会終了をまっていたといわんばかりの強風と雨…。私は余韻に浸るまもなく、祝勝会へ。。

最後になりますが、皆様の大会へのご参加、運営、事前準備にご尽力された事務局はじめご支援くださった関係者の皆様に感謝申し上げます。



ハンガリー日本人会・ ブダペスト日本人学校共催運動会

一般参加者大募集

本年も9月14日(日)に運動会が開催される予定ですが、広く皆様の参加を募っています。

今年の運動会は日本人会及び日本人学校の「共催」で実施する予定です。実はこれまでも「共催」運動会でしたが、日本人学校としてはこの地に学校がある利点を生かし交流を深めることが大切であると考え、日本人会としてはそのお手伝いをする事で、更に「共催」の意味を深めることができると思っています。

その交流と言う意味で一般参加者を歓迎します。具体的には、日本人子女で日本人学校以外(補習校、インターナショナル校等)に通っている児童・生徒並びに日本人学校と交

流の深いヴィラーニョシュ校の日本語を学習している児童・生徒、更には幼児の皆様、そして日本人学校保護者以外の大人の方々に多数参加頂きたいと願っています。

当日のプログラムには、幼児の皆様用の種目もいくつか用意されており、また一般大人の皆様用にもリレーやパン食い競争等が予定されているようです。一般参加の児童・生徒には当日赤白に分かれてもらい、得点源となってもらうつもりです。これは本人達の参加意識を高めるとともに、日本人学校児童・生徒と一体となつて、充実感や達成感を持つて貰いたいと考えているからです。

日本人会としては、一般参加頂けそうな方々に声を掛けたり広く宣伝をしたりして一人でも多くの一般参加者に来て頂きたいと考えています。又、当日は一般参加者の受付や誘導等のお手伝いもしたいと考えていま

す。本番では色々とはプニングがあるって台本通りに行かないことがあるかも知れませんが、どうか心の交流を求めて足をお運びください。

日本人会と致しましても、是非とも「共催」運動会を成功させ、その他魅力のある行事やイベントを企画・実施して行きたいと思っておりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

日本人学校以外からの参加申し込み、運動会に関するお問合せについては、どうかご遠慮なく日本人会事務局へご連絡ください。

日本人会事務局 : 住所 1054

Budapest V. Zoltán u.13 I/1

電話 (06-1)

373-0400

Eメール

nihonjinkai@nihonjinkai.hu